

特別支援教育に関する研究 (1)

—LD傾向のある児童・生徒の特徴について—

林 幸範 石橋裕子 亀山洋光 林 廣徳

The purpose of this study is to clarify the characteristic of primary pupils & junior high school students with the LD tendency in Japan. By the investigation that Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology carried out the standard of the LD in 2002. “B groups”(the group with the LD tendency) were 23 primary pupil (the number of respondents were 108 primary pupils), and 83 junior high student (the number of respondents were 108 junior high students). The characteristics of the B group are as follows.

- (1) Few primary pupils think a school to be fun, and many junior high students think a school not to be clogged up.
- (2) Many primary pupils & junior high school students get tired of that they go to school.
- (3) When junior high students got tired of that they go to school, many junior high students have not gone to school.
- (4) Primary pupils & junior high school students tend to estimate the school record as an lower middle (2) and low (1), and a tendency becomes strong in a junior high student.
- (5) There are many primary pupils which oneself likes, but a tendency to come strongly to dislike in junior high students.
- (6) Many primary pupils & junior high school students think “easy”, “making people laugh well” and “kind” but on the other hand think “egocentric” and “type of mukatsuku (that is angry or irritating)”. Furthermore, many primary pupils think “usually” oneself, but decreases in junior high student.
- (7) Because Many primary pupils & junior high school students are that “a thought do not be unified”, “irritated”, “perseverance disappearing”, “are not a feeling to continue one for a long time”, that “do not have any motivation” and “constipation and having loose bowels”, they are a state of the stress. The junior high students tend to worsen this in particular.

1. はじめに

平成19年度から、公立小中学校を中心に特別支援教育が実施されており、また平成21年度の『幼稚園指導要領』の改訂により幼稚園でも特別支援教育が義務化された。それに伴い、教育現場では多岐に渡る種々の問題が起り混乱をしている。ところが、教育現場で指摘されている問題点の多くは、特別支援が実施される前に石橋・林が公表した『特別支援教育に関する研究(1)－特別支援教育の課題・問題点を中心にして－』¹⁾で指摘した以下の「特別支援教育」の今後の課題で予測した点と酷似している。

- ①多様な障害のある児童・生徒が就学することから、教職員の理解促進を含め学校全体が組織として一体的に取り組むことを確保する体制の構築が不可欠であること。
- ②一人ひとりのが、教育的ニーズを把握して適切な教育を行うための計画を作成・実行するために、盲・聾・養護学校や福祉・医療機関との連携協力が必要であること。
- ③LD、AD／HD等の障害により通常学級に所属す

る特別な支援を必要とする児童・生徒への総合的な支援体制を確立すること。

- ④幼稚園・保育所での対応の重要性。幼児期から支援を進めるためには、幼稚園全体で支援しあえるような体制の整備、日頃から保護者への理解促進を進めていく研修等の充実が必要となる。保育所においても幼稚園と同様の視点から取り組むことが重要であること。
- ⑤小学校や盲・聾・養護学校の小学部と幼稚園や保育所との日頃からの情報交換が重要であること。
- ⑥中学を卒業した者は、高等学校へ進学する生徒も多いことから、高等学校においてもLD、AD/HD、高機能自閉症等の障害のある生徒への対応としての特別な支援体制の構築が必要であること。
- ⑦大学においては、LD、AD/HD等の学生についての大学関係者の理解の促進と、学生に対して相談援助を行う組織体制についての具体的検討や、個々の学生への支援内容や方法についての検討の推進等が必要であること。
- ⑧大学の保育者や教員養成課程では、学生に対してど

のように統合保育・統合教育を教育していくか、特に実践科目等での統合保育・統合教育を見据えたカリキュラムを検討すること。など

これらの問題点以外に、教育現場でよく聞くことに、文部科学省の平成14年『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査』（これ以降『全国実態調査』）に対しての意見がある。その代表的な意見としては、

①「著しい困難」な児童・生徒が、文科省が指摘した6.3%よりもっと多いのではということ

②疑いがあるグレーゾーンの児童・生徒は何人いるかこの調査からでは分からないこと

などという点があげられている。さらに、実践研究などを通してからもこの調査結果が教育現場の実態と非常にかけ離れているという疑問が生じている。

そこで、『こどもの問題研究会』を組織し、保育・教育現場での実践などを実施し、さらに文部科学省が定義をした「著しい困難」な児童・生徒についての教育現場の実態と特徴を知るための調査を計画した。その計画の先行研究として、平成19・20年度に、小学生・中学生の調査を実施し公表してきた^{2) 3) 4) 5) 6) 7) 8)}。その結果、「著しい困難」な児童・生徒と「それ以外」の児童・生徒の間では、

①生活の実態・意識などではほぼ差がないこと

②いじめに関しての経験・意識等が多いこと

③不定愁訴が高いことなど

が明らかとなった^{2) 3) 4) 5) 6) 7) 8)}。

以上のことから、本研究では、その調査の先行研究の一つとしての小学生・中学生調査の分析を通して、「著しい困難」な児童・生徒の一つのカテゴリーであるLD傾向の児童・生徒の特徴を明確にするために再分析を実施した。なお、本研究の「中学生調査」の分析は、亀山洋光の卒業論文（平成20年、東京福祉大学提出）の再分析である。

2. 方法

(1) 調査時期

「小学生調査」は、平成20年11月に、「中学生調査」は、平成19年11月に実施した。

(2) 調査対象（詳細は表1参照）

「小学生調査」の調査対象校は、東京都の1区の公立小学校1校で、「中学生調査」の調査対象校は、愛知県の2市の公立中学校3校で実施した。

(3) 調査方法

調査方法は、両調査とも質問紙法で、各学校で本

人が質問紙を記入し、その後封筒に入れ、自ら封をして担任教諭が回収した。

(4) 調査項目

①「小学生調査」の調査項目

- 1) 基本的属性…性別・学年
- 2) 学校生活……学校は楽しいかとその理由・学校へ行くのは嫌かとその理由・学校へ行くのが嫌になった時学校へ行かなかったか・好きな学校の時間・学校の成績
- 3) 自己概念……自己肯定感・自己概念
- 4) テスト不安
- 5) 不定愁訴
- 6) 『全国実態調査』項目…学習面

②「中学生調査」の調査項目

- 1) 基本的属性…学年・年齢・性別・家族関係
- 2) 家庭生活……友人関係・携帯電話関係・テレビゲーム関係
- 3) 学校生活……学校は楽しいかとその理由・学校へ行くのは嫌かとその理由・学校へ行くのが嫌になった時学校へ行かなかったか・学校の成績・学校での問題行動関係
- 4) 自己概念……自己肯定感・自己概念
- 5) ストレス……不定愁訴・ライフイベント関係・対処法・相談相手
- 6) 『全国実態調査』項目…学習面・行動面・対人関係面

③共通質問項目

- 1) 基本的属性
 1. 性別・2. 学年
- 2) 『全国実態調査』項目
 1. 学習面（30項目：4段階評定）
 - 3) 学校生活
 1. 学校は楽しいか（5段階評定）とその理由（複数回答）（小学生調査：7項目、中学生調査：9項目）
 2. 学校へ行くのは嫌か（4段階評定）とその理由（複数回答）（小学生調査：8項目、中学生調査：11項目）
 3. 学校へ行くのが嫌になった時学校へ行かなかったか（4段階評定）
 4. 学校の成績（5段階評定）
 - 4) 自己概念
 1. 自己肯定感（5段階評定）
 2. 自己概念（複数回答：3段階評定）（小学

生調査：27項目、中学生調査：26項目）

5) 不定愁訴（3段階評定）（18項目）

(5) 分析

①項目の採点基準

1) 『文部科学省全国実態調査』項目

学習面の「聞くこと」・「話すこと」・「読むこと」・「書くこと」・「計算すること」・「推論すること」の6領域各5項目計30項目について、『ない』・『あまりない』・『たまにある』・『よくある』の4段階で評定を実施し、それぞれ0・1・2・3点とし、各領域ごとに合計得点を算出した。

「著しい困難を示す」とは、『文部科学省全国実態調査』と同じ基準を採用し、各領域の合計得点が12点以上が1つ以上あるものとした。

2) 不定愁訴の項目

「不定愁訴」の項目は、『毎日ある』・『時々ある』・『ほとんどない』・『全くない』の4段階評定と実施し、得点として、各々1・2・3・4点と換算した。さらに、林らが実施した『中学生調査⁹⁾』の結果得られた因子「精神的疲労状況」「身体的疲労状況」「重度な疲労状況」の3領域の合計得点を算出した。

②分析基準

1) 群の分類基準と分析

文部科学省『全国実態調査』の基準による学習面に『著しい困難群』（LD傾向の強い群でこれ以降『B群』）と、『それ以外群』（LD傾向の弱い群でこれ以降『S群』）を算出した。この2群については、小・中学生ごとの群間の分析、『B群』における小・中学生の分析を実施した。特に、両群の特徴を明確にするためなどに林の数量化2類も実施した。

2) 各群間の対象人数（表1を参照）

各群間の対象人数は、小学4年生では、『B群』は8名（男子7名・女子1名）・『S群』は29名（男子17名・女子12名）、小学5年生では、『B群』は9名（男子3名・女子6名）・『S群』は26名（男子15名・女子11名）、小学6年生では、『B群』は6名（男子3名・女子3名）・『S群』は29名（男子15名・女子14名）、小学生全体では、『B群』は23名（男子13名・女子10名）・『S群』は84名（男子47名・女子37名）であった。中学1年生では、『B

表1 学年・性

		B群	S群	無回答	計
小学	小学4年生	男子	7 [87.5%] > 17 [58.6%] < 29.2% < < 70.8%	0 [0.0%] < 0.0%	24 [63.2%] < 100.0%
		女子	1 [12.5%] < 12 [41.4%] < 7.1% < < 85.7%	1 [100.0%] < 7.1%	14 [36.8%] < 100.0%
		小計	8 [100.0%] 29 [100.0%] < 21.1% < < 76.3%	1 [100.0%] < 2.6%	38 [100.0%] < 100.0%
	小学5年生	男子	3 [33.3%] 15 [57.7%] < 16.7% < < 83.3%	0 [-] < 0.0%	18 [51.4%] < 100.0%
		女子	6 [66.7%] > 11 [42.3%] < 35.3% < < 64.7%	0 [-] < 0.0%	17 [48.6%] < 100.0%
		小計	9 [100.0%] 26 [100.0%] < 25.7% < < 74.3%	0 [-] < 0.0%	35 [100.0%] < 100.0%
	小学6年生	男子	3 [50.0%] 15 [51.7%] < 13.0% < < 83.3%	0 [-] < 0.0%	18 [51.4%] < 100.0%
		女子	3 [50.0%] 14 [48.3%] < 17.6% < < 82.3%	0 [-] < 0.0%	17 [48.6%] < 100.0%
		小計	6 [100.0%] 29 [100.0%] < 17.1% < < 82.9%	0 [-] < 0.0%	35 [100.0%] < 100.0%
	全体	男子	13 [56.5%] 47 [56.0%] < 21.7% < < 78.3%	0 [0.0%] < 0.0%	60 [55.6%] < 100.0%
		女子	10 [43.5%] 37 [44.0%] < 20.8% < < 77.1%	1 [100.0%] < 2.1%	48 [44.4%] < 100.0%
		小計	23 [100.0%] 84 [100.0%] < 21.3% < < 77.8%	1 [100.0%] < 0.9%	108 [100.0%] < 100.0%
中学	中学1年生	男子	9 [37.5%] < 57 [54.8%] < 12.5% < < 79.2%	6 [66.7%] < 8.3%	72 [52.6%] < 100.0%
		女子	15 [62.5%] > 47 [45.2%] < 23.1% < < 72.3%	3 [33.3%] < 4.6%	65 [47.4%] < 100.0%
		小計	24 [100.0%] 104 [100.0%] < 17.5% < < 75.9%	9 [100.0%] < 6.6%	137 [100.0%] < 100.0%
	中学2年生	男子	11 [47.8%] 54 [55.1%] < 16.2% < < 79.4%	3 [42.9%] < 4.4%	68 [53.1%] < 100.0%
		女子	12 [52.2%] 44 [44.9%] < 20.0% < < 73.3%	4 [57.1%] < 6.7%	60 [46.9%] < 100.0%
		小計	23 [100.0%] 98 [100.0%] < 18.0% < < 76.6%	7 [100.0%] < 5.5%	128 [100.0%] < 100.0%
	中学3年生	男子	15 [41.7%] < 46 [51.7%] < 23.4% < < 71.9%	3 [37.5%] < 4.7%	64 [48.1%] < 100.0%
		女子	21 [58.3%] > 43 [48.3%] < 30.4% < < 62.3%	5 [62.5%] < 7.2%	69 [51.9%] < 100.0%
		小計	36 [100.0%] > 89 [100.0%] < 27.1% < < 66.9%	8 [100.0%] < 6.0%	133 [100.0%] < 100.0%
	全体	男子	35 [42.2%] < 157 [54.0%] < 17.2% < < 77.0%	12 [50.0%] < 5.9%	204 [51.3%] < 100.0%
		女子	48 [57.8%] > 134 [46.0%] < 24.7% < < 69.1%	12 [50.0%] < 6.2%	194 [48.7%] < 100.0%
		小計	83 [100.0%] 291 [100.0%] < 20.9% < < 73.1%	24 [100.0%] < 6.0%	398 [100.0%] < 100.0%

注) 1) B群：著しい困難群；S群：それ以外群
 2) 整数は回答人数；[]の小数の数字は『小計』を母数とする割合（%）；< >の小数の数字は『計』を母数とする割合（%）
 3) 囲い込みの数字は、50.0%以上の割合（『無回答』は除く）
 4) 不等号の記号（<, >）は、10.0%以上差があった場合の大小の関係（『無回答』は除く）

群』は24名(男子9名・女子15名)・『S群』は104名(男子57名・女子47名)、中学2年生では、『B群』は23名(男子11名・女子12名)・『S群』は98名(男子54名・女子44名)、中学3年生では、『B群』は36名(男子15名・女子21名)・『S群』は89名(男子46名・女子43名)、中学生全体では、『B群』は83名(男子35名・女子48名)・『S群』は291名(男子157名・女子134名)であった。全体では、『B群』は106名(男子48名・女子58名)・『S群』は375名(男子204名・女子171名)であった。なお、『群不明』が小学生で1名、中学生で24名であった。

3) 分析項目

「小学生調査」と「中学生調査」の共通項目を分析した。なお、詳細は「2. 方法」 「(4) 調査項目」を参照。

3. 結果と考察

(1) 基本的属性(表1参照)

基本的属性として、学年・性別を尋ねた結果は、以下の通りである。

「小学生調査」では、小学4年生は、男子24名(63.2%)・女子14名(36.8%)の計38名、小学5年生は、男子18名(51.4%)・女子17名(48.6%)の計35名、小学6年生は、男子18名(51.4%)・女子17名(48.6%)の35名、小学生全体は、男子60名(55.6%)・女子48名(44.4%)の計108名であった。

「中学生調査」では、中学1年生は、男子72名(52.6%)・女子65名(47.4%)の計137名、中学2年生は、男子68名(53.1%)・女子60名(46.9%)の計128名、中学3年生は、男子64名(48.1%)・女子69名(51.9%)の計133名、中学生全体は、男子204名(51.3%)・女子194名(48.7%)の計398名であった。さらに、『小学4年生』(男子:63.2%>女子:36.8%)・『全体』(男子:55.6%>女子:44.4%)は男子の方が女子より割合が高いが、それ以外ではほぼ同じ割合であった。

群間別では、「小学生調査」においては、『小学4年生』の『男子』(B群:87.5%>S群:58.6%)・『小学5年生』の『女子』(B群:66.7%>S群:42.3%)ではB群が割合が高かった。逆に『小学4年生』の『女子』(B群:12.5%<S群:41.4%)・『小学5年生』の『男子』(B群:33.3%<S群:57.7%)ではS群が割合が高かった。また、『小学6年生』の『男子』(B群:50.0%≒S群:51.7%)・『小学6年生』の『女子』(B群:50.0%≒S群:

48.3%)では両群がほぼ同じ割合であった。

「中学生調査」においては、『中学1年生』の『女子』(B群:62.5%>S群:45.2%)・『中学3年生』の『女子』(B群:58.3%>S群:48.3%)ではB群が割合が高かった。『中学1年生』の『男子』(B群:37.5%<S群:54.8%)・『中学3年生』の『男子』(B群:41.7%<S群:51.7%)ではS群が割合が高かった。『中学2年生』の『男子』(B群:47.8%≒S群:55.1%)・『中学2年生』の『女子』(B群:52.2%≒S群:44.9%)では両群がほぼ同じ割合であった。

(2) 文部科学省『全国実態調査』の項目(表2参照)

文部科学省『全国実態調査』の項目の学習面に関する項目を尋ねた結果は、以下の通りである。

「小学校調査」における学習面の6領域・学習面の得点の平均(SD:標準偏差)は、「聞くこと」の『B群』は8.0(2.22)・『S群』は5.5(2.68)、「話すこと」の『B群』は9.3(2.54)・『S群』は6.9(2.61)、「読むこと」の『B群』は7.5(2.91)・『S群』は3.8(2.68)、「書くこと」の『B群』は11.1(2.64)・『S群』は6.0(2.78)、「計算すること」の『B群』は7.3(4.70)・『S群』は2.9(2.91)、「推論すること」の『B群』は8.3(3.57)・『S群』は3.9(3.04)、「総得点」の『B群』は51.6(9.72)・『S群』は28.6(12.91)であった。

「中学校調査」における学習面の6領域・総得点の得点の平均(SD:標準偏差)は、「聞くこと」の『B群』は9.0(3.48)・『S群』は4.2(2.88)、「話すこと」の『B群』は9.9(4.04)・『S群』は4.3(3.24)、「読むこと」の『B群』は6.4(3.50)・『S群』は3.0(2.75)、「書くこと」の『B群』は8.4(4.12)・『S群』は4.3(3.09)、「計算すること」の『B群』は8.2(4.56)・『S群』は4.2(3.10)、「推論すること」の『B群』は9.4(4.66)・『S群』は4.6(3.10)、「学習面の得点」の『B群』は50.2(15.63)・『S群』は24.6(13.59)であった。

「群間別」をみると、「小学生調査」では、「聞くこと」の『「知った」を「行った」と聞き間違えてしまうことがある。』・「話すこと」の『人と話すときに、言葉につまってしまうことがある。』の2項目以外の項目において『B群』と『S群』との得点には優位な差(有意水準5%未満)があり、『S群』よりも『B群』の得点の方が高かった。「中学生調査」では、全ての項目において、『B群』と『S群』との得点には優位な差(有意水準5%未満)があり、『S群』よりも『B群』の得点の方が高かった。

表2 文部科学省『全国実態調査』の項目の得点

	小学生		中学生		B群間の検定 上段:F検定 下段:t検定	
	B群	S群	B群	S群		
「知った」を「行った」と聞き間違えてしまうことがある。	平均(SD)[人数]	2.0(0.71)[23]	1.7(0.75)[84]	2.2(0.93)[82]	1.3(0.86)[291]	F=4.48* t=2.39;df=104*
「知った」を「行った」などというような聞き間違えをする。	群間の検定(F検定:t検定)	F=2.97;t=-0.99;df=29.2		F=14.33***;t=5.84;df=372***		
先生や友だちや親などの言葉を聞きもらしてしまうことがある。	平均(SD)[人数]	2.0(0.71)[23]	1.7(0.75)[84]	2.2(0.93)[82]	1.3(0.86)[291]	F=6.61* t=-0.49;df=103
聞きもらしがある。	群間の検定(F検定:t検定)	F=4.43;t=-2.22;df=105*		F=0.11;t=-7.15;df=1229**		
ひとりから言われると聞くことができるが、数人からの話しを聞くことができないことがある。	平均(SD)[人数]	2.0(0.80)[23]	1.5(0.98)[84]	1.9(1.14)[83]	0.8(0.95)[291]	F=12.31*** t=0.53;df=104
友達一人から言われると聞き取れるが、集団での話を集中して聞くことが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=7.42***;t=-2.26;df=105*		F=7.85***;t=9.01;df=372***		
先生や親から「こうしてください」という指示がわからなくなることがある。	平均(SD)[人数]	1.8(0.94)[23]	1.1(0.96)[84]	1.7(1.07)[83]	0.7(0.85)[291]	F=2.28 t=0.61;df=39.4
先生などが「こうしてください」という指示を理解するのが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.17;t=-3.52;df=35.1*		F=13.62***;t=9.07;df=372***		
話し合いで、話し合いについていけないことがある。	平均(SD)[人数]	1.4(0.78)[23]	0.7(0.78)[84]	1.9(0.98)[82]	0.7(0.84)[291]	F=0.77 t=-2.86;df=43.6**
話し合いでは、話についていけないことがある。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.01;t=-3.34;df=35.1*		F=0.81;t=-9.90;df=117.1**		
聞くことの得点	平均(SD)[人数]	8.0(2.22)[23]	5.5(2.68)[84]	9.0(3.48)[81]	4.2(2.88)[291]	F=8.88** t=-1.24;df=102
人と話すときに、はっきり話すことができなかったり、とても早口で話すことがある。	平均(SD)[人数]	1.7(0.89)[23]	1.2(0.87)[84]	1.9(1.12)[83]	0.6(0.89)[291]	F=1.98 t=-1.03;df=43.6
人と話すときには、たどたどし話すか、とても早口で話すかなど適切な速さで話すことが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.01;t=-2.40;df=34.6*		F=8.68***;t=10.66;df=372***		
人と話すときに、言葉につまってしまうことがある。	平均(SD)[人数]	1.7(0.83)[23]	1.4(0.82)[83]	2.2(0.96)[82]	1.0(0.97)[291]	F=0.93 t=-2.49;df=40.1*
人と話すときに、適切なときを見つけれなかったり、ことばにつまったりする。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.08;t=-1.49;df=34.8		F=0.50;t=-9.31;df=130.6**		
人と話すときに、かんたんな言葉だけで話したり、短い文で話したりすることがある。	平均(SD)[人数]	2.0(0.83)[23]	1.5(0.91)[84]	1.6(1.24)[83]	0.6(0.83)[291]	F=18.04*** t=1.25;df=104
人と話すときに、単語を並べるだけだったり、短い文で話をすることがある。	群間の検定(F検定:t検定)	F=1.26;t=-2.36;df=38.1*		F=62.06***;t=8.57;df=372***		
人と話すときに、思いっぴのまま話したりすることがある。	平均(SD)[人数]	1.9(0.90)[23]	1.4(0.87)[83]	2.0(1.17)[83]	0.8(0.89)[291]	F=6.08* t=-0.19;df=104
人と話すときに、思いっぴのまま話すなど筋道の通った話をするのが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.06;t=-2.39;df=34.3*		F=21.71***;t=9.98;df=372***		
人と話すときに、思いっぴのまま話すと筋道の通った話をするのが苦手である。	平均(SD)[人数]	2.1(0.90)[23]	1.4(0.88)[83]	2.3(1.01)[83]	1.2(1.07)[291]	F=1.58 t=-0.82;df=38.9
人と話すときに、他人にわかりやすく伝えることができないことがある。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.08;t=-3.38;df=34.5*		F=0.90;t=-8.14;df=138.3**		
他人に内容をわかりやすく伝えることが苦手である。	平均(SD)[人数]	9.3(2.54)[23]	6.9(2.61)[81]	9.9(4.04)[82]	4.3(3.24)[291]	F=4.46* t=-0.68;df=103
話すことの得点	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.28;t=-3.98;df=36.3**		F=4.77;t=13.02;df=4**		
「き」と「さ」、「め」と「ぬ」など形が似ている文字を読みまちがえることがある。	平均(SD)[人数]	0.8(1.00)[23]	0.3(0.54)[84]	0.7(1.06)[82]	0.3(0.63)[291]	F=0.40 t=0.42;df=37.2
「き」と「さ」、「め」と「ぬ」など形が似ている文字を読み間違える。	群間の検定(F検定:t検定)	F=18.76***;t=-3.34;df=105*		F=59.05***;t=4.46;df=371***		
文中の言葉や行をぬかしたり、繰り返し同じ部分を読んでしまうことがある。	平均(SD)[人数]	2.1(0.95)[23]	1.3(0.94)[84]	1.5(1.08)[82]	0.8(0.86)[291]	F=3.63 t=2.65;df=39.5*
文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んでしまうことがある。	群間の検定(F検定:t検定)	F=1.28;t=-3.54;df=34.8*		F=14.79***;t=6.32;df=371***		
文章をスムーズに読めなかったり、音読するのが遅いことがある。	平均(SD)[人数]	1.7(1.01)[23]	0.9(0.86)[83]	1.4(1.15)[83]	0.6(0.88)[291]	F=2.38 t=1.54;df=39.4
文章をスムーズに読むことができなかったり、音読が遅い。	群間の検定(F検定:t検定)	F=1.12;t=-3.83;df=31.3**		F=23.53***;t=6.40;df=372***		
「いきました」を「いまいち」と読みまちがえてしまうことがある。	平均(SD)[人数]	1.0(0.93)[23]	0.5(0.69)[84]	1.0(1.11)[83]	0.4(0.74)[291]	F=3.68 t=0.03;df=41.1
「いきました」を「いまいち」と読みまちがえてしまうことがある。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.68;t=-2.68;df=28.9*		F=34.23***;t=5.93;df=372***		
文章の大事なところを、読みとることができないことがある。	平均(SD)[人数]	1.9(0.76)[23]	0.9(0.81)[84]	1.9(1.04)[82]	1.0(0.95)[291]	F=5.55* t=-0.09;df=103
文章の要点を正しく読みとることが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.61;t=-5.27;df=37.0**		F=3.61;t=7.13;df=121.2**		
読むことの得点	平均(SD)[人数]	7.5(2.91)[23]	3.8(2.68)[83]	6.4(3.50)[80]	3.0(2.75)[291]	F=0.81 t=1.59;df=42.1
群間の検定(F検定:t検定)	F=0.18;t=-5.51;df=33.1**		F=6.66***;t=9.07;df=369***			
字の形や大きさをバラバラに書いて、まっすぐに書けなかったり、読みにくい字を書くことがある。	平均(SD)[人数]	2.3(0.86)[23]	1.2(0.89)[84]	1.9(1.15)[82]	1.0(1.04)[291]	F=4.69* t=1.34;df=103
字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書けない、読みにくい字を書く。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.09;t=-5.11;df=35.9**		F=5.26***;t=6.67;df=371***		
正しい書き順で字を書かないことがある。	平均(SD)[人数]	2.6(0.59)[23]	1.6(0.91)[83]	1.7(1.15)[83]	0.8(0.98)[291]	F=20.29*** t=3.62;df=104***
独特の筆順で書く。	群間の検定(F検定:t検定)	F=6.20***;t=-4.96;df=104**		F=13.64***;t=5.46;df=372***		
漢字の細かい部分を書きまちがえてしまうことがある。	平均(SD)[人数]	2.4(0.79)[22]	1.4(0.85)[84]	1.6(1.11)[82]	0.9(0.91)[291]	F=9.20** t=3.22;df=102**
漢字のへんやつくりを入れ替えたり、細かい部分を書き間違えたりする。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.89;t=-4.99;df=34.9**		F=14.47***;t=5.62;df=371***		
文章を書くときに、「」や「」がぬけたり、正しく書けないことがある。	平均(SD)[人数]	2.0(0.88)[23]	1.0(0.83)[84]	1.5(1.11)[83]	0.7(0.82)[291]	F=6.64* t=1.89;df=104+
句読点が抜けたり、正しく打つことができない。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.07;t=-4.74;df=33.5**		F=25.38***;t=7.35;df=372***		
限られた量の作文や、いつも書いているような文章しか書くことができないことがある。	平均(SD)[人数]	1.8(1.03)[23]	0.8(0.75)[84]	1.7(1.12)[82]	0.8(0.92)[291]	F=2.63 t=0.48;df=37.8
限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書けない。	群間の検定(F検定:t検定)	F=1.73;t=-4.63;df=28.8**		F=12.34***;t=7.56;df=371***		
書くことの得点	平均(SD)[人数]	11.1(2.64)[22]	6.0(2.78)[83]	8.4(4.12)[80]	4.3(3.09)[291]	F=7.55** t=2.91;df=100**
群間の検定(F検定:t検定)	F=0.78;t=-8.00;df=34.4**		F=13.07***;t=9.61;df=369***			
三千四十七を300047や347と書いてしまうことがある。	平均(SD)[人数]	1.0(1.00)[23]	0.2(0.43)[84]	1.1(1.13)[81]	0.4(0.71)[291]	F=2.45 t=-0.36;df=39.5
25と26の比較など2桁以上の数字の大小比較が苦手である、分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている(数の意味がわからない)、3047を30047などと書いてしまう。	群間の検定(F検定:t検定)	F=16.19***;t=-5.91;df=105**		F=38.23***;t=6.72;df=370***		
かんたんな計算でも暗算で、できないことがある。	平均(SD)[人数]	1.2(1.20)[23]	0.5(0.75)[84]	1.3(1.21)[83]	0.4(0.73)[291]	F=0.04 t=-0.17;df=35.3
簡単な計算が暗算でできない。	群間の検定(F検定:t検定)	F=16.55***;t=-3.34;df=105*		F=71.00***;t=7.67;df=372***		
計算するのにとても時間がかかってしまう。	平均(SD)[人数]	1.8(1.11)[22]	0.7(0.87)[83]	1.8(1.17)[83]	0.9(0.94)[291]	F=1.39 t=-0.26;df=34.5
計算するのにとても時間がかかる方だと。	群間の検定(F検定:t検定)	F=1.31;t=-4.21;df=28.1**		F=16.76***;t=7.79;df=372***		
+×が混ざった計算をするのが、苦手できないことがある。	平均(SD)[人数]	1.7(1.19)[23]	0.8(0.96)[84]	1.5(1.25)[83]	0.8(0.90)[291]	F=1.00 t=0.39;df=36.6
+×が混ざっている計算(四則の混合計算)などのようにいくつかの手続きを要する問題を解くのが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=2.76;t=-3.13;df=30.3**		F=42.58***;t=6.34;df=372***		
算数の文章問題を答えることが、できないことがある。	平均(SD)[人数]	1.6(1.12)[23]	0.8(0.83)[83]	2.5(0.99)[83]	1.7(1.15)[291]	F=1.45 t=-3.26;df=32.2**
数学の文章問題を解くのが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=4.79***;t=-3.91;df=104**		F=12.38***;t=5.05;df=372***		
計算することの得点	平均(SD)[人数]	7.3(4.70)[22]	2.9(2.91)[82]	8.2(4.56)[81]	4.2(3.10)[291]	F=0.21 t=-0.76;df=32.5
群間の検定(F検定:t検定)	F=7.74***;t=-5.43;df=102**		F=36.18***;t=9.07;df=370***			
長さや量を比べたりする問題を、答えることができないことがある。	平均(SD)[人数]	1.3(1.01)[23]	0.6(0.74)[83]	1.8(1.20)[82]	0.9(0.95)[291]	F=2.72 t=-2.09;df=41.0*
15cmは150mmということなどがわからない、長さやかさの比較などが苦手である。量を表す基本単量を表す基本単位の理解や単位の変換が苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=3.93;t=-2.76;df=28.9**		F=17.71***;t=6.97;df=371***		
丸やひし形などの図形を書くことが、できないことがある。	平均(SD)[人数]	1.2(1.13)[23]	0.4(0.61)[84]	1.9(1.24)[83]	0.9(0.89)[291]	F=1.47 t=-2.44;df=38.2*
丸やひし形などの図形をかくことや表・グラフからの数量間の関係を理解することが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=23.67***;t=-4.87;df=105**		F=36.84***;t=7.77;df=372***		
ものがどうしてそうなるのかを、考えるのが苦手、考えられなくなることがある。	平均(SD)[人数]	2.0(1.00)[23]	0.8(0.88)[83]	2.1(1.04)[83]	0.9(0.84)[291]	F=1.34 t=-0.25;df=36.3
事物の因果関係を理解することが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.13;t=-5.09;df=32.1**		F=6.42***;t=10.86;df=372***		
いろいろなことを考えて、問題を解決することができないことがある。	平均(SD)[人数]	1.6(0.89)[23]	1.0(0.83)[83]	2.0(1.10)[82]	1.0(0.86)[291]	F=1.15 t=-1.87;df=42.7+
十分に考えたり、順序立ててしたりして、課題を解決することが苦手である。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.42;t=-3.18;df=33.2**		F=12.24***;t=9.26;df=371***		
よく聞かずにわかったつもりになったり、急に違うことを考えてしまうことがある。	平均(SD)[人数]	2.2(0.90)[23]	1.1(0.92)[84]	1.7(1.20)[82]	0.9(0.84)[291]	F=7.18** t=1.99;df=103*
早合点や飛躍した考え方を、する。	群間の検定(F検定:t検定)	F=0.01;t=-5.21;df=35.5**		F=39.91***;t=6.78;df=371***		
推論することの得点	平均(SD)[人数]	8.3(3.57)[23]	3.9(3.04)[82]	9.4(4.66)[82]	4.6(3.10)[291]	F=5.96* t=-1.05;df=103
群間の検定(F検定:t検定)	F=0.30;t=-5.42;df=31.5**		F=40.01***;t=11.08;df=371***			
学習面の得点	平均(SD)[人数]	51.6(9.72)[21]	28.6(12.91)[77]	50.2(15.63)[75]	24.6(13.59)[291]	F=7.04** t=0.39;df=94
群間の検定(F検定:t検定)	F=3.24;t=-8.94;df=41.3**		F=2.25;t=12.98;df=104.6**			

注) 1) B群: 著しい困難群; S群: それ以外群
 2) 群間の検定・B群間の検定…F値:t値,df=自由度,+p<0.1; *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001
 3) 項目は、上段が小学生調査、下段が中学生調査

「B群別」において、『小学生』と『中学生』の得点に優位な差(有意水準5%未満)があったのは、「聞くこと」の「『知った』を『行った』などというような聞き間違えをする。」(小学生0.7<中学生:1.4)・「話し合いでは、話についていけなかったり、話がわからないことがある。」(小学生:1.4<中学生:1.9)、「話すこと」の「人と話すときに、適切なことばを見つけれなかったり、ことばにまつまったりする。」(小学生:1.7<中学生:2.2)、「計算すること」の「数学の文章題を解くのが苦手である。」(小学生:1.6<中学生:2.5)、「推論すること」の「15cmは150mmということなどがわからない、長さやかさの比較などが苦手である。量を表す基本単量を表す基本単位の理解や単位の変換が苦手である。」(小学生:1.3<中学生:1.8)・「丸やひし形などの図形をかくことや表・グラフからの数量間の関係を理解することが苦手である。」(小学生:1.2<中学生:1.9)の計6項目で、『小学生』よりも『中学生』の方が得点が高かった。逆に、「読むこと」の「文の中の言葉や行をぬかしたり、繰り返し同じ部分を読んでしまうことがある。」(小学生:2.1>中学生:1.5)、「書くこと」の「正しい書き順で字を書かないことがある。」(小学生:2.6>中学生:1.7)・「漢字の細かい部分を書きまちがえてしまうことがある。」(小学生:2.4>中学生:1.6)・「文章を書くときに、『、』や『。』がぬけたり、正しく書くことができないことがある。」(小学生:11.1>中学生:8.4)、「推論すること」の「よく聞かずにわかったつもりになったり、急に違うことを考えてしまうことがある。」(小学生:2.2<中学生:1.7)の計5項目で、『中学生』よりも『小学生』の方が得

点が高かった。さらに、『小学生』と『中学生』との得点には優位な差(有意水準10%未満)があったのは、「推論すること」の「十分に考えたり、順序立てしたりして、課題を解決することが苦手である。」(小学生:1.6<中学生:2.0)の1項目で、『小学生』よりも『中学生』の方が得点が高く、逆に、「書くこと」の「文章を書くときに、『、』や『。』がぬけたり、正しく書くことができないことがある。」(小学生:2.0>中学生:1.5)の1項目で、『中学生』よりも『小学生』の方が得点が高かった。なお、項目名は得点の高い方を使用した。

これらのことから、「小学生調査」の「聞くこと」の「『知った』を『行った』と聞き間違えてしまうことがある。」・「話すこと」の「人と話すときに、言葉につまってしまうことがある。」の2項目以外の項目は、『S群』よりも『B群』の得点の方が高い。さらに、B群間においては、「書くこと」は小学生の方が得点が高く、「推論すること」などでは中学生の方が得点が高い傾向がある。

(3) 学校生活

① 学校へ行くのが楽しいかとその理由

1) 学校へ行くのが楽しいか(表3参照)

学校へ行くのが楽しいかを尋ねた結果は、以下の通りである。

「小学生調査」では、『大変・すごく楽しい』が37.0%、『楽しい』が51.9%、『どちらでもない』が10.2%、『つまらない』が0.9%、『とてもつまらない』が0.0%で、『詰まらない』『つまらない』と『とてもつまらない』の合計で、

表3 学校へ行くのが楽しいか

	小学生				中学生				B群(再掲)	
	B群	S群	無回答	計	B群	S群	無回答	計	小学生	中学生
大変・すごく楽しい	4(17.4%)	< 36(42.9%)	0(0.0%)	40(37.0%)	15(18.1%)	72(24.7%)	3(12.5%)	>> 90(22.6%)	17.4%	18.1%
楽しい	13(56.5%)	42(50.0%)	1(100.0%)	56(51.9%)	39(47.0%)	142(48.8%)	14(58.3%)	195(49.0%)	56.5%	47.0%
たのしい	17(73.9%)	< 78(92.9%)	1(100.0%)	96(88.9%)	54(65.1%)	214(73.5%)	17(70.8%)	> 285(71.6%)	73.9%	65.1%
どちらでもない	5(21.7%)	> 6(7.1%)	0(0.0%)	11(10.2%)	14(16.9%)	61(21.0%)	6(25.0%)	< 81(20.4%)	21.7%	16.9%
詰まらない	1(4.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.9%)	15(18.1%)	> 15(5.2%)	1(4.2%)	31(7.8%)	4.3%	< 18.1%
つまらない	1(4.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.9%)	11(13.3%)	13(4.5%)	0(0.0%)	24(6.0%)	4.3%	13.3%
とてもつまらない	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(4.8%)	2(0.7%)	1(4.2%)	7(1.8%)	0.0%	4.8%
無回答	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.3%)	0(0.0%)	1(0.3%)	0.0%	0.0%
合計	23	84	1	108	83	291	24	398	23	83

注) 1) B群: 著しい困難群; S群: それ以外群

2) 「たのしい」は、「大変・すごく楽しい」と「楽しい」の合計; 「詰まらない」は、「つまらない」と「とてもつまらない」の合計;

3) 整数は回答人数; () の小数の数字は、『合計』を母数とする割合(%)

4) 囲い込みの[数字]は、50.0%以上の割合(『無回答』は除く)

5) 不等号の記号(<, >)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係(『無回答』『計』は除く); 『計』の不等号の記号(<=>)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係

これ以降同じ』(0.9%)よりも『たのしい(『大変・すごく楽しい』と『楽しい』の合計で、これ以降同じ)』(88.9%)の方が割合が高かった。『B群』では、『大変・すごく楽しい』が17.4%、『楽しい』が56.5%、『どちらでもない』が21.7%、『つまらない』が4.3%、『とてもつまらない』が0.0%で、『詰まらない』(4.3%)よりも『たのしい』(73.9%)の方が割合が高かった。『S群』では、『大変・すごく楽しい』が42.9%、『楽しい』が50.0%、『どちらでもない』が7.1%、『つまらない』が0.0%、『とてもつまらない』が0.0%で、『詰まらない』(0.0%)よりも『たのしい』(92.9%)の方が割合が高かった。

「中学生調査」では、『大変・すごく楽しい』が22.6%、『楽しい』が49.0%、『どちらでもない』が20.4%、『つまらない』が6.0%、『とてもつまらない』が1.8%で、『詰まらない』(7.8%)よりも『たのしい』(71.6%)の方が割合が高かった。『B群』では、『大変・すごく楽しい』が18.1%、『楽しい』が47.0%、『どちらでもない』が16.9%、『つまらない』が13.3%、『とてもつまらない』が4.8%で、『詰まらない』(18.1%)よりも『たのしい』(65.1%)の方が割合が高かった。『S群』では、『大変・すごく楽しい』が24.7%、『楽しい』が48.8%、『どちらでもない』が21.0%、『つまらない』が4.5%、『とてもつまらない』が0.7%で、『詰まらない』(5.2%)よりも『たのしい』(73.5%)の方が割合が高かった。

さらに、『大変・すごく楽しい』(小学生：37.0%≧中学生：22.6%)・『たのしい』(小学生：88.9%≧中学生：71.6%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高かった。逆に、『どちらでもない』(小学生：10.2%≦中学生：20.4%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高かった。

群間別をみると、「小学生調査」においては、『どちらでもない』(B群：21.7%>S群：7.1%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高かった。逆に、『大変・すごく楽しい』(B群：17.4%<S群：42.9%)・『たのしい』(B群：73.9%<S群：92.9%)では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高かった。「中学生調査」においては、『詰まらない』(B群：18.1%>S群：5.2%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高かった。

「B群別」においては、『詰まらない』(小学生：4.3%<中学生：18.1%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高かった。

これらのことから、小・中学生、B群・S群ともに学校へ行くのが楽しい児童・生徒が多い。しかしながら、小学生では、学校へ行くのがたのしいと思っている児童が、S群に比べてB群の方が少なく、逆に中学生では、詰まらないと思っている生徒が、S群に比べてB群の方が多い傾向がある。また、B群間でも小学生よりも中学生の方が学校へ行くのが詰まらないと思う傾向が強い。

2) 学校へ行くのが楽しいかの理由(表4参照)

学校へ行くのが楽しいかについての理由について尋ねた結果は、以下の通りであった。

1. 学校へ行くのが楽しい理由

学校へ行くのが楽しい理由の上位3位は、「小学生調査」では、「友達と遊べるから」(96.9%)・「勉強があるから」(26.0%)・「何となく」(20.8%)の順位であった。『B群』では、「友達と遊べるから」(100.0%)・「勉強があるから」(23.5%)・「何となく」(17.6%)の順位であった。『S群』では、「友達と遊べるから」(96.2%)・「勉強があるから」(26.9%)・「何となく」(21.8%)の順位であった。

「中学生調査」では、「友達などと話ができるから」(82.5%)・「友達に会えるから」(79.3%)・「部活があるから」(34.7%)の順位であった。『B群』では、「友達に会えるから」(87.0%)・「友達などと話ができるから」(83.3%)・「部活があるから」(37.0%)の順位であった。『S群』では、「友達などと話ができるから」(83.6%)・「友達に会えるから」(78.5%)・「部活があるから」(35.5%)の順位であった。

さらに、「勉強があるから」(小学生：26.0%≧中学生：7.4%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高かった。

「B群別」においては、「勉強があるから」(小学生：23.5%>中学生：7.4%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高かった。

2. 学校へ行くのがつまらない理由

つまらない理由の上位3位は、「小学生調査」では、『B群』1名であり、「勉強があるから」「嫌いな先生がいるから」「いやなことがあるから」「何となく」(各100.0%)であった。

「中学生調査」では、「勉強があるから」(58.1%)・「嫌いな先生がいるから」(41.9%)・「何となく」(29.0%)の順位であった。『B群』では、「嫌いな先生がいるから」(66.7%)・「勉強があるから」(53.3%)・「何となく」(33.3%)の順位であった。『S群』では、「勉強があるから」(60.0%)・「何となく」(26.7%)・「嫌いな先生がいるから」「その他」(各

20.0%)の順位であった。

群間別をみてみると、「中学生調査」においては、「部活があるから」(B群:20.0%>S群:6.7%)・「嫌いな先生がいるから」(B群:66.7%>S群:20.0%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。逆に、「その他」(B群:6.7%<S群:20.0%)では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高った。

これらのことから、学校へ行くのが楽しい理由は、友達関係のことや勉強のことが理由であげられ、つまらない理由は、勉強のことが理由としてあげる児童・生徒が多い傾向がある。

表4 学校へ行くのが楽しいかの理由(複数回答)

	小学生				中学生				B群(再掲)		
	B群	S群	無回答	計	B群	S群	無回答	計	小学生	中学生	
楽しい理由	友達と遊べるから	①17(100.0%)	①75(96.2%)	1(100.0%)	①93(96.9%)	-	-	-	-	100.0%	-
	友達に会えるから	-	-	-	-	①47(87.0%)	②168(78.5%)	11(64.7%)	②226(79.3%)	-	87.0%
	友達などと話ができるから	-	-	-	-	②45(83.3%)	①179(83.6%)	11(64.7%)	①235(82.5%)	-	83.3%
	勉強があるから	②4(23.5%)	②21(26.9%)	0(0.0%)	②25(26.0%)	4(7.4%)	13(6.1%)	4(23.5%)	③21(7.4%)	23.5%	> 7.4%
	部活があるから	-	-	-	-	③20(37.0%)	③76(35.5%)	3(17.6%)	③99(34.7%)	-	37.0%
	異性の友達に会えるから	-	-	-	-	④11(20.4%)	④35(16.4%)	1(5.9%)	④47(16.5%)	-	20.4%
	好きな先生がいるから	④2(11.8%)	④11(14.1%)	0(0.0%)	④13(13.5%)	2(3.7%)	14(6.5%)	1(5.9%)	17(6.0%)	11.8%	3.7%
	嫌いな先生がいるから	0(0.0%)	1(1.3%)	0(0.0%)	1(1.0%)	1(1.9%)	5(2.3%)	0(0.0%)	6(2.1%)	0.0%	1.9%
	いやなことがあるから	0(0.0%)	7(9.0%)	0(0.0%)	7(7.3%)	-	-	-	-	0.0%	-
	いじめがあるから	-	-	-	-	0(0.0%)	2(0.9%)	0(0.0%)	2(0.7%)	-	0.0%
	何となく	③3(17.6%)	③17(21.8%)	0(0.0%)	③20(20.8%)	⑤10(18.5%)	⑤22(10.3%)	2(11.8%)	⑤34(11.9%)	17.6%	18.5%
	わからない	0(0.0%)	1(1.3%)	0(0.0%)	1(1.0%)	0(0.0%)	2(0.9%)	2(11.8%)	4(1.4%)	0.0%	0.0%
その他	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(3.7%)	4(1.9%)	0(0.0%)	6(2.1%)	0.0%	3.7%	
合計	17	78	1	96	54	214	17	285	17	54	
つまらない理由	友達と遊べるから	0(0.0%)	0(0.0%)	-	0(0.0%)	-	-	-	-	0.0%	-
	友達に会えるから	-	-	-	-	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	-	0.0%
	友達などと話ができるから	-	-	-	-	1(6.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.2%)	-	6.7%
	勉強があるから	①1(100.0%)	0(0.0%)	-	①1(100.0%)	②8(53.3%)	①9(60.0%)	1(100.0%)	③18(58.1%)	100.0%	> 53.3%
	部活があるから	-	-	-	-	④3(20.0%)	> 1(6.7%)	0(0.0%)	④4(12.9%)	-	20.0%
	異性の友達に会えるから	-	-	-	-	0(0.0%)	1(6.7%)	0(0.0%)	1(3.2%)	-	0.0%
	好きな先生がいるから	0(0.0%)	0(0.0%)	-	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0.0%	0.0%
	嫌いな先生がいるから	①1(100.0%)	0(0.0%)	-	①1(100.0%)	①10(66.7%)	> ③3(20.0%)	0(0.0%)	③213(41.9%)	100.0%	> 66.7%
	いやなことがあるから	①1(100.0%)	0(0.0%)	-	①1(100.0%)	-	-	-	-	100.0%	-
	いじめがあるから	-	-	-	-	1(6.7%)	1(6.7%)	0(0.0%)	2(6.5%)	-	6.7%
	何となく	①1(100.0%)	0(0.0%)	-	①1(100.0%)	③5(33.3%)	②4(26.7%)	0(0.0%)	③9(29.0%)	100.0%	> 33.3%
	わからない	0(0.0%)	0(0.0%)	-	0(0.0%)	0(0.0%)	1(6.7%)	0(0.0%)	1(3.2%)	-	0.0%
その他	0(0.0%)	0(0.0%)	-	0(0.0%)	1(6.7%)	< ③3(20.0%)	0(0.0%)	④4(12.9%)	-	6.7%	
合計	1	0	0	1	15	15	1	31	1	15	

注) 1) B群:著しい困難群; S群:それ以外群
2) 整数は回答人数; ()の小数の数字は、「合計」を母数とする割合(%)
3) 白抜きの数字(①②③…)は、割合の高い順位で、基本的には10.0%以上に記載
4) 囲い込みの「数字」は、50.0%以上の割合(「無回答」は除く)
5) 不等号の記号(<, >)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係(「無回答」「計」は除く); 「計」の不等号の記号(<, >)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係
6) 囲い込みの「項目名」は、「小学生調査」と「中学生調査」の共通項目

②学校へ行くのが嫌になったことがあるか

1) 学校へ行くのが嫌になったことがあるか（表5参照）

学校へ行くのが嫌になったことがあるかについて尋ねた結果は、以下の通りであった。

「小学生調査」では、『よくある』が9.3%、『時々ある』が30.6%、『あまりない』が40.7%、『全く・全然ない』が19.4%で、『ある（『よくある』と『時々ある』の合計で、これ以降同じ）』（39.8%）よりも『ない（『あまりない』と『全く・全然ない』の合計で、これ以降同じ）』（60.2%）の方が割合が高った。『B群』では、『よくある』が13.0%、『時々ある』が47.8%、『あまりない』が26.1%、『全く・全然ない』が13.0%で、『ない』（39.1%）よりも『ある』（60.9%）の方が割合が高った。『S群』では、『よくある』が8.3%、『時々ある』が26.2%、『あまりない』が44.0%、『全く・全然ない』が21.4%で、『ある』（34.5%）よりも『ない』（65.5%）の方が割合が高った。

「中学生調査」では、『よくある』が13.1%、『時々ある』が37.9%、『あまりない』が32.9%、『全く・全然ない』が16.1%で、『ある』（51.0%）と『ない』（49.0%）はほぼ同じ割合であった。『B群』では、『よくある』が24.1%、『時々ある』が39.8%、『あまりない』が21.7%、『全く・全然ない』が14.5%で、『ない』（36.1%）よりも『ある』（63.9%）の方が割合が高った。『S群』では、『よくある』が10.7%、『時々ある』が36.4%、『あまりない』が36.1%、『全く・全然ない』が16.8%で、『ある』（47.1%）と『ない』（52.9%）

はほぼ同じ割合であった。

さらに、『ない』（小学生：60.2% ≧ 中学生：49.0%）では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高った。

逆に、『ある』（小学生：39.8% ≦ 中学生：51.0%）では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

群間別をみると、「小学生調査」においては、『時々ある』（B群：47.8% > S群：26.2%）・『ある』（B群：60.9% > S群：34.5%）では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。

逆に、『あまりない』（B群：26.1% < S群：44.0%）・『ない』（B群：39.1% < S群：65.5%）では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高った。「中学生調査」においては、『よくある』（B群：24.1% > S群：10.7%）・『ある』（B群：63.9% > S群：47.1%）では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。

逆に、『あまりない』（B群：21.7% < S群：36.1%）・『ない』（B群：36.1% < S群：52.9%）では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高った。

「B群別」においては、『よくある』（小学生：13.0% < 中学生：24.1%）では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

これらのことから、学校へ行くのが嫌になった児童・生徒は、小中学生ともにB群の方が多い傾向があり、学年を経るに従って増加する傾向があるが、B群ではその傾向がみられない。

表5 学校へ行くのが嫌になったことがあるか

	小学生				中学生				B群（再掲）	
	B群	S群	無回答	計	B群	S群	無回答	計	小学生	中学生
よくある	38(13.0%)	7(8.3%)	0(0.0%)	10(9.3%)	20(24.1%)	31(10.7%)	1(4.2%)	52(13.1%)	13.0%	24.1%
時々ある	11(47.8%)	22(26.2%)	0(0.0%)	33(30.6%)	33(39.8%)	106(36.4%)	12(50.0%)	151(37.9%)	47.8%	39.8%
ある	14(60.9%)	29(34.5%)	0(0.0%)	43(39.8%)	53(63.9%)	137(47.1%)	13(54.2%)	203(51.0%)	60.9%	63.9%
ない	9(39.1%)	55(65.5%)	1(100.0%)	65(60.2%)	30(36.1%)	154(52.9%)	11(45.8%)	195(49.0%)	39.1%	36.1%
あまりない	6(26.1%)	37(44.0%)	1(100.0%)	44(40.7%)	18(21.7%)	105(36.1%)	8(33.3%)	131(32.9%)	26.1%	21.7%
全く・全然ない	3(13.0%)	18(21.4%)	0(0.0%)	21(19.4%)	12(14.5%)	49(16.8%)	3(12.5%)	64(16.1%)	13.0%	14.5%
合計	23	84	1	108	83	291	24	398	23	83

注) 1) B群：著しい困難群；S群：それ以外群
 2) 「ある」は、「よくある」と「時々ある」の合計；「ない」は、「あまりない」と「全く・全然ない」の合計
 3) 整数は回答人数；() の小数の数字は、合計を母数とする割合 (%)
 4) 囲い込みの数字は、50.0%以上の割合（『無回答』は除く）
 5) 不等号の記号 (<, >) は、10.0%以上差があった場合の大小の関係（『無回答』『計』は除く）；『計』の不等号の記号 (<=, >=) は、10.0%以上差があった場合の大小の関係

2) 学校へ行くのが嫌になったことがあるかの理由 (表6参照)

学校へ行くのが嫌になったことがあるかの理由について尋ねた結果が、以下の通りであった。

1. 学校へ行くのが嫌になったことがある理由

学校へ行くのが嫌になったことがある理由の上位3位は、「小学生調査」では、「学校に嫌なことがあるから」(46.5%)・「何となく」(37.2%)・「勉強があるから」(25.6%)の順位であった。『B群』では、「何となく」(50.0%)・「学校に嫌なことがあるから」(各42.9%)の順位であった。『S群』では、「学校に嫌なことがあるから」(48.3%)・「何となく」(31.0%)・「その他」(20.7%)の順位であった。

「中学生調査」では、「勉強があるから」(各80.0%)・「学校に嫌なことがあるから」(各80.0%)・「何となく」(31.0%)の順位であった。『B群』では、「学校に嫌なことがあるから」(47.2%)・「勉強がある

から」(41.5%)・「何となく」(32.1%)の順位であった。『S群』では、「勉強があるから」(40.1%)・「学校に嫌なことがあるから」(35.8%)・「何となく」(32.1%)の順位であった。

さらに、「勉強があるから」(小学生：25.6%≪中学生：39.4%)・「先生と会うから」(小学生：0.0%≪中学生：15.3%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高かった。

群間別をみてみると、「小学生調査」においては、「勉強があるから」(B群：42.9%>S群：17.2%)・「何となく」(B群：50.0%>S群：31.0%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高かった。

「B群別」においては、「何となく」(小学生：50.0%>中学生：32.1%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高かった。逆に、「先生と会うから」(小学生：0.0%<中学生：17.0%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高かった。

表6 学校へ行くのが嫌になったことがあるかの理由 (複数回答)

	小学生				中学生				B群 (再掲)		
	B群	S群	無回答	計	B群	S群	無回答	計	小学生	中学生	
ある理由	勉強があるから	②6(42.9%)	> ④5(17.2%)		③11(25.6%)	②22(41.5%)	①55(40.1%)	3(23.1%)	≪ ①80(39.4%)	42.9%	41.5%
	友達に会うから	④2(14.3%)	⑤3(10.3%)		⑤5(11.6%)	3(5.7%)	3(2.2%)	1(7.7%)	7(3.4%)	14.3%	5.7%
	先生と会うから	0(0.0%)	0(0.0%)		0(0.0%)	④9(17.0%)	⑤20(14.6%)	2(15.4%)	≪ ⑤31(15.3%)	0.0%	< 17.0%
	部活があるから	-	-		-	⑤8(15.1%)	13(9.5%)	2(15.4%)	⑥23(11.3%)	-	15.1%
	学校に嫌なことがあるから	②6(42.9%)	①14(48.3%)		①20(46.5%)	①25(47.2%)	②49(35.8%)	6(46.2%)	①80(39.4%)	42.9%	47.2%
	いじめがあるから	-	-		-	2(3.8%)	4(2.9%)	0(0.0%)	6(3.0%)	-	3.8%
	何となく	①7(50.0%)	> ②9(31.0%)		②16(37.2%)	③17(32.1%)	③44(32.1%)	2(15.4%)	③63(31.0%)	50.0%	> 32.1%
	わからない	0(0.0%)	2(6.9%)		2(4.7%)	4(7.5%)	5(3.6%)	1(7.7%)	10(4.9%)	0.0%	7.5%
	その他	④2(14.3%)	③6(20.7%)		④8(18.6%)	⑤8(15.1%)	④25(18.2%)	6(46.2%)	④39(19.2%)	14.3%	15.1%
無回答	0(0.0%)	0(0.0%)		0(0.0%)	1(1.9%)	1(0.7%)	0(0.0%)	2(1.0%)	0.0%	1.9%	
合計	14	29	0	43	53	137	13	203	14	53	
ない理由	勉強があるから	③1(11.1%)	③8(14.5%)	0(0.0%)	9(3.8%)	⑤4(13.3%)	< ①41(26.6%)	1(9.1%)	≪ ②46(23.6%)	11.1%	13.3%
	友達に会うから	①7(77.8%)	> ①28(50.9%)	0(0.0%)	①35(53.8%)	②8(26.7%)	①41(26.6%)	1(9.1%)	≧ ①50(25.6%)	77.8%	> 26.7%
	先生と会うから	2(22.2%)	④7(12.7%)	0(0.0%)	③9(13.8%)	1(3.3%)	3(1.9%)	0(0.0%)	≧ 4(2.1%)	22.2%	> 3.3%
	部活があるから	-	-		-	2(6.7%)	⑤23(14.9%)	0(0.0%)	⑤25(12.8%)	-	6.7%
	学校に嫌なことがあるから	0(0.0%)	< ⑤6(10.9%)	0(0.0%)	6(9.2%)	0(0.0%)	9(5.8%)	0(0.0%)	9(4.6%)	0.0%	0.0%
	いじめがあるから	-	-		-	0(0.0%)	1(0.6%)	1(9.1%)	2(1.0%)	-	0.0%
	何となく	0(0.0%)	< ②20(36.4%)	0(0.0%)	②20(30.8%)	①10(33.3%)	> ③32(20.8%)	2(18.2%)	③44(22.6%)	0.0%	< 33.3%
	わからない	③1(11.1%)	4(7.3%)	1(100.0%)	6(9.2%)	③7(23.3%)	> 15(9.7%)	2(18.2%)	⑥24(12.3%)	11.1%	< 23.3%
	その他	②2(22.2%)	> ⑤6(10.9%)	0(0.0%)	④8(12.3%)	1(3.3%)	13(8.4%)	1(9.1%)	15(7.7%)	22.2%	> 3.3%
無回答	0(0.0%)	2(3.6%)	0(0.0%)	2(3.1%)	④5(16.7%)	④25(16.2%)	3(27.3%)	④33(16.9%)	0.0%	16.7%	
合計	9	55	1	65	30	154	11	195	9	30	

注) 1) B群：著しい困難群；S群：それ以外群
2) 整数は回答人数；() の小数の数字は、合計を母数とする割合 (%)
3) 白抜きの数字 (①②③…) は、割合の高い順位で、基本的には10.0%以上に記載
4) 囲い込みの [数字] は、50.0%以上の割合 (『無回答』は除く)
5) 不等号の記号 (<, >) は、10.0%以上差があった場合の大小の関係 (『無回答』『計』は除く)；『計』の不等号の記号 (≪, ≧) は、10.0%以上差があった場合の大小の関係
6) 囲い込みの [項目名] は、「小学生調査」と「中学生調査」の共通項目

2. 学校へ行くのが嫌になったことがない理由

学校へ行くのが嫌になったことがない理由の上位3位は、「小学生調査」では、「友達に会うから」(53.8%)・「何となく」(30.8%)・「先生と会うから」(13.8%)の順位であった。『B群』では、「友達に会うから」(77.8%)・「その他」(22.2%)・「勉強があるから」「わからない」(各11.1%)の順位であった。『S群』では、「友達に会うから」(50.9%)・「何となく」(36.4%)・「勉強があるから」(14.5%)の順位であった。

「中学生調査」では、「友達に会うから」(25.6%)・「何となく」(23.6%)・「先生と会うから」(22.6%)の順位であった。『B群』では、「何となく」(33.3%)・「友達に会うから」(26.7%)・「わからない」(23.3%)の順位であった。『S群』では、「勉強があるから」「友達に会うから」(各26.6%)・「何となく」(20.8%)の順位であった。

さらに、「友達に会うから」(小学生：53.8%≧中学生：25.6%)・「先生と会うから」(小学生：13.8%≧中学生：2.1%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高った。逆に、「勉強があるから」(小学生：3.8%≦中学生：23.6%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

群間別をみると、「小学生調査」においては、「友達に会うから」(B群：77.8%≧S群：50.9%)・「その他」(B群：22.2%≧S群：10.9%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。

逆に、「学校に嫌なことがあるから」(B群：0.0%≦S群：10.9%)・「何となく」(B群：0.0%≦S群：36.4%)では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高った。「中学生調査」においては、「何となく」(B群：33.3%≧S群：20.8%)・「わからない」(B群：23.3%≧S群：9.7%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。逆に、「勉強があるから」(B群：13.3%≦S群：26.6%)では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高った。

「B群別」においては、「友達に会う

から」(小学生：77.8%≧中学生：26.7%)・「先生と会うから」(小学生：22.2%≧中学生：3.3%)・「その他」(小学生：22.2%≧中学生：3.3%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高った。逆に、「何となく」(小学生：0.0%≦中学生：33.3%)・「わからない」(小学生：11.1%≦中学生：23.3%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

これらのことから、学校へ行くのが嫌になったことがある理由としては、勉強があるからや学校に嫌なことがあるから、さらに何となくをあげている児童・生徒は、B群の方が多い傾向があり、この傾向は学年を経るに従って増える傾向がある。さらに、嫌になったことがない理由としては、勉強があるからと何となくが多い傾向がある。

③学校へ行くのが嫌になったとき、学校へ行かなかったことがあるか(表7参照)

「小学生調査」では、『よくある』が0.0%、『時々ある』が3.7%、『あまりない』が10.2%、『全く・全然ない』が86.1%で、『ある』(『よくある』と『時々ある』の合計で、これ以降同じ)(3.7%)よりも『ない』(『あまりない』と『全く・全然ない』の合計で、これ以降同じ)(96.3%)の方が割合が高った。『B群』では、『よくある』が0.0%、『時々ある』が0.0%、『あまりない』が13.0%、『全く・全然ない』が87.0%で、『ある』(0.0%)よりも『ない』(100.0%)の方が割合が高った。『S群』では、『よくある』が0.0%、『時々ある』が4.8%、『あまりない』が9.5%、『全く・全然ない』が85.7%で、『ある』(4.8%)よりも『ない』(95.2%)の方が割合が高った。

「中学生調査」では、『よくある』が1.5%、『時々ある』が5.5%、『あまりない』が14.6%、『全く・全然ない』が77.1%で、『ある』(7.0%)よりも『ない』(91.7%)の方が割合が高った。『B群』では、『よくある』が4.8%、『時々ある』が9.6%、『あまりない』が15.7%、『全く・全然ない』が69.9%で、『ある』(14.5%)よりも『ない』(85.5%)の方が割合が高った。『S群』では、『よくある』が0.7%、『時々ある』が4.5%、『あまりない』が14.8%、『全く・全然ない』が78.7%で、『ある』

(5.2%) よりも『ない』(93.5%)の方が割合が高かった。

「B群別」においては、『全く・全然ない』(小学生：87.0%>中学生：69.9%)・『ない』(小学生：100.0%>中学生：85.5%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高かった。逆に、『ある』(小学生：0.0%<中学生：14.5%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高かった。

これらのことから、学校へ行くのが嫌になったとき、学校へ行かなかったことがない児童・生徒がほとんどであるが、B群においては、学年を経るに従って減少する傾向がある。

④学校での成績 (表8参照)

学校の成績について尋ねた結果が、以下の通りである。

「小学生調査」では、『上』が13.9%、『中の上』が35.2%、『中』が26.9%、『中の下』が15.7%、

『下』が7.4%であった。『B群』では、『上』が0.0%、『中の上』が26.1%、『中』が17.4%、『中の下』が34.8%、『下』が21.7%であった。『S群』では、『上』が17.9%、『中の上』が38.1%、『中』が29.8%、『中の下』が10.7%、『下』が3.6%であった。

「中学生調査」では、『上』が6.3%、『中の上』が24.6%、『中』が27.9%、『中の下』が24.6%、『下』が16.6%であった。『B群』では、『上』が3.6%、『中の上』が14.5%、『中』が21.7%、『中の下』が27.7%、『下』が32.5%であった。『S群』では、『上』が6.9%、『中の上』が27.8%、『中』が29.6%、『中の下』が25.1%、『下』が10.7%であった。

さらに、『中の上』(小学生：35.2%≧中学生：24.6%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高かった。

群間別をみてみると、「小学生調査」においては、『中の下』(B群：34.8%>S群：10.7%)・

表7 学校へ行くのが嫌になったとき、学校へ行かなかったことがあるか

	小学生				中学生				B群 (再掲)	
	B群	S群	無回答	計	B群	S群	無回答	計	小学生	中学生
よくある	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(4.8%)	2(0.7%)	0(0.0%)	6(1.5%)	0.0%	4.8%
時々ある	0(0.0%)	4(4.8%)	0(0.0%)	4(3.7%)	8(9.6%)	13(4.5%)	1(4.2%)	22(5.5%)	0.0%	9.6%
ある	0(0.0%)	4(4.8%)	0(0.0%)	4(3.7%)	12(14.5%)	15(5.2%)	1(4.2%)	28(7.0%)	0.0% <	14.5%
ない	23(100.0%)	80(95.2%)	1(100.0%)	104(96.3%)	71(85.5%)	272(93.5%)	22(91.7%)	365(91.7%)	100.0% >	85.5%
あまりない	3(13.0%)	8(9.5%)	0(0.0%)	11(10.2%)	13(15.7%)	43(14.8%)	2(8.3%)	58(14.6%)	13.0%	15.7%
全く・全然ない	20(87.0%)	72(85.7%)	1(100.0%)	93(86.1%)	58(69.9%)	229(78.7%)	20(83.3%)	307(77.1%)	87.0% >	69.9%
無回答	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(1.4%)	1(4.2%)	5(1.3%)	0.0%	0.0%
合計	23	84	1	108	83	291	24	398	23	83

- 注) 1) B群：著しい困難群；S群：それ以外群
 2) 「ある」は、「よくある」と「時々ある」の合計；「ない」は、「あまりない」と「全く・全然ない」の合計
 3) 整数は回答人数；()の小数の数字は、合計を母数とする割合(%)
 4) 白抜きの数字(①②③…)は、割合の高い順位で、基本的には10.0%以上に記載
 5) 開い込みの[数字]は、50.0%以上の割合(「無回答」は除く)
 6) 不等号の記号(<, >)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係(「無回答」「計」は除く)；「計」の不等号の記号(<=, >=)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係

表8 学校での成績

	小学生				中学生				B群 (再掲)	
	B群	S群	無回答	計	B群	S群	無回答	計	小学生	中学生
上	0(0.0%) <	15(17.9%)	0(0.0%)	15(13.9%)	3(3.6%)	20(6.9%)	2(8.3%)	25(6.3%)	0.0%	3.6%
中の上	6(26.1%) <	32(38.1%)	0(0.0%)	38(35.2%)	12(14.5%) <	81(27.8%)	5(20.8%)	98(24.6%)	26.1% >	14.5%
中	4(17.4%) <	25(29.8%)	0(0.0%)	29(26.9%)	18(21.7%)	86(29.6%)	7(29.2%)	111(27.9%)	17.4%	21.7%
中の下	8(34.8%) >	9(10.7%)	0(0.0%)	17(15.7%)	23(27.7%)	73(25.1%)	2(8.3%)	98(24.6%)	34.8%	27.7%
下	5(21.7%) >	3(3.6%)	0(0.0%)	8(7.4%)	27(32.5%) >	31(10.7%)	8(33.3%)	66(16.6%)	21.7% <	32.5%
無回答	0(0.0%)	0(0.0%)	1(100.0%)	1(0.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0.0%	0.0%
合計	23	84	1	108	83	291	24	398	23	83

- 注) 1) B群：著しい困難群；S群：それ以外群
 2) 整数は回答人数；()の小数の数字は、合計を母数とする割合(%)
 3) 白抜きの数字(①②③…)は、割合の高い順位で、基本的には10.0%以上に記載
 4) 開い込みの[数字]は、50.0%以上の割合(「無回答」は除く)
 5) 不等号の記号(<, >)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係(「無回答」「計」は除く)；「計」の不等号の記号(<=, >=)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係

『下』(B群：21.7%＞S群：3.6%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。

逆に、『上』(B群：0.0%＜S群：17.9%)・『中の上』(B群：26.1%＜S群：38.1%)・『中』(B群：17.4%＜S群：29.8%)では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高った。「中学生調査」においては、『下』(B群：32.5%＞S群：10.7%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。逆に、『中の上』(B群：14.5%＜S群：27.8%)では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高った。

「B群別」においては、『中の上』(小学生：26.1%＞中学生：14.5%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高った。逆に、『下』(小学生：21.7%＜中学生：32.5%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

これらのことから、B群はS群に比べて学校の成績を低く評価する傾向があり、学年を経るに従ってこの傾向は強くなる。

(4) 自己概念

①自己肯定感－自分のことが好きか(表9参照)

自己肯定感－自分のことが好きかについて尋ねた結果は、以下の通りである。

「小学生調査」では、『大好き』が19.4%、『好き』が31.5%、『どちらでもない』が42.6%、『嫌い』が5.6%、『大嫌い』が0.9%で、『きらい』(『嫌い』と『大嫌い』の合計で、これ以降同じ)』(6.5%)よりも『すき』(『大好き』と『好き』の合計で、これ以降同じ)』(50.9%)の方が割合が高った。

『B群』では、『大好き』が13.0%、『好き』が39.1%、『どちらでもない』が39.1%、『嫌い』が4.3%、『大嫌い』が4.3%で、『きらい』(8.7%)よりも『すき』(52.2%)の方が割合が高った。『S群』では、『大好き』が21.4%、『好き』が29.8%、『どちらでもない』が44.0%、『嫌い』が4.8%、『大嫌い』が0.0%で、『きらい』(4.8%)よりも『すき』(51.2%)の方が割合が高った。

「中学生調査」では、『大好き』が4.0%、『好き』が12.8%、『どちらでもない』が60.3%、『嫌い』が15.6%、『大嫌い』が6.3%で、『きらい』(21.9%)と『すき』(16.8%)はほぼ同じ割合であった。『B群』では、『大好き』が6.0%、『好き』が12.0%、『どちらでもない』が55.4%、『嫌い』が14.5%、『大嫌い』が12.0%で、『きらい』(26.5%)と『すき』(18.1%)はほぼ同じ割合であった。『S群』では、『大好き』が3.8%、『好き』が12.7%、『どちらでもない』が61.5%、『嫌い』が15.8%、『大嫌い』が4.8%で、『きらい』(20.6%)と『すき』(16.5%)はほぼ同じ割合であった。

さらに、『大好き』(小学生：19.4%≫中学生：4.0%)・『好き』(小学生：31.5%≫中学生：12.8%)・『すき』(小学生：50.9%≫中学生：16.8%)・では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高った。逆に、『どちらでもない』(小学生：42.6%≫中学生：60.3%)・『嫌い』(小学生：5.6%≪中学生：15.6%)・『きらい』(小学生：6.5%≪中学生：21.9%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

「B群別」においては、『好き』(小学生：39.1%

表9 自己肯定感－自分のことが好きか

	小学生				中学生				B群(再掲)	
	B群	S群	無回答	計	B群	S群	無回答	計	小学生	中学生
大好き	3(13.0%)	18(21.4%)	0(0.0%)	21(19.4%)	5(6.0%)	11(3.8%)	0(0.0%)	16(4.0%)	13.0%	6.0%
好き	9(39.1%)	25(29.8%)	0(0.0%)	34(31.5%)	10(12.0%)	37(12.7%)	4(16.7%)	51(12.8%)	39.1%	12.0%
すき	12(52.2%)	43(51.2%)	0(0.0%)	55(50.9%)	15(18.1%)	48(16.5%)	4(16.7%)	67(16.8%)	52.2%	18.1%
どちらでもない	9(39.1%)	37(44.0%)	0(0.0%)	46(42.6%)	46(55.4%)	179(61.5%)	15(62.5%)	240(60.3%)	39.1%	55.4%
きらい	2(8.7%)	4(4.8%)	1(100.0%)	7(6.5%)	22(26.5%)	60(20.6%)	5(20.8%)	87(21.9%)	8.7%	26.5%
嫌い	1(4.3%)	4(4.8%)	1(100.0%)	6(5.6%)	12(14.5%)	46(15.8%)	4(16.7%)	62(15.6%)	4.3%	14.5%
大嫌い	1(4.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.9%)	10(12.0%)	14(4.8%)	1(4.2%)	25(6.3%)	4.3%	12.0%
無回答	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(1.4%)	0(0.0%)	4(1.0%)	0.0%	0.0%
合計	23	84	1	108	83	291	24	398	23	83

注) 1) B群：著しい困難群；S群：それ以外群
 2) 「すき」は、「大好き」と「好き」の合計；「きらい」は、「嫌い」と「大嫌い」の合計
 3) 整数は回答人数；() の小数の数字は、合計を母数とする割合(%)
 4) 自抜きの数字(①②③…)は、割合の高い順位で、基本的には10.0%以上に記載
 5) 囲い込みの数字は、50.0%以上の割合(「無回答」は除く)
 6) 不等号の記号(<, >)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係(「無回答」「計」は除く)；「計」の不等号の記号(<=, >=)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係

>中学生：12.0%)・『すき』(小学生：52.2%>中学生：18.1%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高った。逆に、『どちらでもない』(小学生：39.1%<中学生：55.4%)・『嫌い』(小学生：4.3%<中学生：14.5%)・『きらい』(小学生：8.7%<中学生：26.5%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

これらのことから、小学生では自分のことが好きである児童が多い傾向があるが、学年を経るに従ってきらいになる傾向が強くなる。この傾向はB群においても同様な傾向がある。

②自己概念 (表10参照)

自己概念について尋ねた結果は、以下の通りであった。

自己概念の上位5位は、「小学生調査」では、「友達が多い」(66.7%)・「明るい」(54.6%)・「人をよく笑わせる」(45.4%)・「運動神経がいい・運動ができる」「ふつうである」(各44.4%)の順位であった。『B群』では、「友達が多い」(69.6%)・「ふつうである」(60.9%)・「人をよく笑わせる」(52.2%)・「明るい」(47.8%)・「ムカツクタイプである」(39.1%)の順位であった。『S群』では、「友達が多い」(66.7%)・「明るい」(57.1%)・「運動神経がいい・運動ができる」(47.6%)・「他人の目を気にするタイプである」(46.4%)・「人をよく笑わせる」(44.0%)の順位であった。

「中学生調査」では、「他人の目を気にするタイプである」(51.5%)・「明るい」「ふつうである」(各44.2%)・「友達が多い」(36.9%)・「苦しいこともガマンできる」(30.9%)の順位であった。『B群』では、「他人の目を気にするタイプである」(61.4%)・「明るい」(44.6%)・「ものごとを深く考える・色々な事を深く考える」(39.8%)・「苦しいこともガマンできる」「友達が多い」「ふつうである」(各37.3%)の順位であった。『S群』では、「他人の目を気にするタイプである」(49.5%)・「ふつうである」(47.4%)・「明るい」(44.7%)・「友達が多い」(36.4%)・「苦しいこともガマンできる」(30.2%)の順位であった。

さらに、「がんばりやである」(小学生：38.0%>中学生：25.9%)・「運動神経がいい・運動ができる」(小学生：44.4%>中学生：15.8%)・「人をよく笑わせる」(小学生：45.4%>中学生：26.4%)・「心が優しい・やさしい」(小学生：35.2%>中学生：20.4%)・「友達が多い」(小学

生：66.7%>中学生：36.9%)・「神経質である・細かいことを気にする」(小学生：33.3%>中学生：16.6%)・「キレるタイプである」(小学生：21.3%>中学生：13.8%)・「明るい」(小学生：54.6%>中学生：44.2%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高った。逆に、「自己中心的である」(小学生：6.5%<中学生：22.1%)・「短気である」(小学生：18.5%<中学生：29.1%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

群間別をみてみると、「小学生調査」においては、「キレるタイプである」(B群：34.8%>S群：17.9%)・「ムカツクタイプである」(B群：39.1%>S群：15.5%)・「ふつうである」(B群：60.9%>S群：40.5%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。逆に、「勉強が良くてできる」(B群：4.3%<S群：17.9%)・「がんばりやである」(B群：30.4%<S群：40.5%)・「しっかりしている」(B群：4.3%<S群：16.7%)・「苦しいこともガマンできる」(B群：13.0%<S群：31.0%)・「運動神経がいい・運動ができる」(B群：30.4%<S群：47.6%)・「頭がいい」(B群：0.0%<S群：15.5%)・「ものごとを深く考える・色々な事を深く考える」(B群：13.0%<S群：35.7%)・「みんなから信頼されている」(B群：8.7%<S群：20.2%)・「自分に自信がある」(B群：4.3%<S群：21.4%)・「困難な時に・大変な時に自分の力で解決できる」(B群：0.0%<S群：22.6%)・「自己主張をする方である・自分の意見をはっきり言うタイプである」(B群：8.7%<S群：25.0%)・「他人の目を気にするタイプである」(B群：26.1%<S群：46.4%)では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高った。「中学生調査」においては、「ものごとを深く考える・色々な事を深く考える」(B群：39.8%>S群：28.9%)・「ムカツクタイプである」(B群：21.7%>S群：11.7%)・「他人の目を気にするタイプである」(B群：61.4%>S群：49.5%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。逆に、「ふつうである」(B群：37.3%<S群：47.4%)では、『B群』よりも『S群』の方が割合が高った。「B群別」においては、「運動神経がいい・運動ができる」(小学生：30.4%>中学生：15.7%)・「人をよく笑わせる」(小学生：52.2%>中学生：32.5%)・「心が優しい・やさしい」(小学生：39.1%>中学生：27.7%)・「友達が多い」(小学生：69.6%>中学生：37.3%)・「キ

れるタイプである」(小学生: 34.8% > 中学生: 14.5%)・「ムカツクタイプである」(小学生: 39.1% > 中学生: 21.7%)・「ふつうである」(小学生: 60.9% > 中学生: 37.3%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高った。逆に、「苦しいこともガマンできる」(小学生: 13.0% < 中学生: 37.3%)・「自己中心的である」(小学生: 13.0% < 中学生: 28.9%)・「目立たないタイプである」(小学生: 26.1% < 中学生: 36.1%)・「ものごとを深く考える・色々な事を深く考える」(小学生: 13.0% < 中学生: 39.8%)・「困難な時に・大変な時に自分の力で解決できる」(小学生: 0.0% < 中学生: 13.3%)・「短気である」(小学生: 21.7% < 中学生: 34.9%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

これらのことから、小中学生とも自分は明るく友人が多いなど自己概念をプラスに思っているが、中学生になると、他人の目を気にするなど評価する生徒が増える傾向にある。小学生のB群でもほぼ同じ傾向ではあるが、さらに自分をふつうと思う小学生がS群より多いが、中学生になると逆転をする傾向がある。

(5) 不定愁訴

①不定愁訴 (表11参照)

不定愁訴について尋ねた結果は、以下の通りであった。

不定愁訴の上位5位は、「小学生調査」では、「ねむい」(79.6%)・「横になって休みたい」(52.8%)・「目が見つかる」(50.0%)・「頭が痛い、ぼんやりする」(45.4%)・「大声を出したり、

表10 自己概念 (複数回答)

	小学生				中学生				B群 (再掲)	
	B群	S群	無回答	計	B群	S群	無回答	計	小学生	中学生
勉強が良くできる	1 (4.3%) <	15 (17.9%)	0 (0.0%)	16 (14.8%)	7 (8.4%)	27 (9.3%)	1 (4.2%)	35 (8.8%)	4.3%	8.4%
がんばりやである	7 (30.4%) <	⑥34 (40.5%)	0 (0.0%)	⑦41 (38.0%)	⑩21 (25.3%)	⑩73 (25.1%)	9 (37.5%)	⑩103 (25.9%)	30.4%	25.3%
しっかりしている	1 (4.3%) <	14 (16.7%)	0 (0.0%)	15 (13.9%)	10 (12.0%)	32 (11.0%)	4 (16.7%)	46 (11.6%)	4.3%	12.0%
落ち着いている	5 (21.7%)	⑩17 (20.2%)	1 (100.0%)	⑩23 (21.3%)	⑬19 (22.9%)	50 (17.2%)	6 (25.0%)	75 (18.8%)	21.7%	22.9%
行動力がある	-	-	-	-	10 (12.0%)	54 (18.6%)	2 (8.3%)	66 (16.6%)	-	12.0%
苦しいこともガマンできる	3 (13.0%) <	⑩26 (31.0%)	0 (0.0%)	⑩29 (26.9%)	④31 (37.3%)	⑤88 (30.2%)	4 (16.7%)	⑤123 (30.9%)	13.0% <	37.3%
自己中心的である	3 (13.0%)	4 (4.8%)	0 (0.0%)	7 (6.5%)	⑩24 (28.9%)	⑩59 (20.3%)	5 (20.8%)	< ⑩88 (22.1%)	13.0% <	28.9%
運動神経がいい・運動が得意	⑧7 (30.4%) <	③40 (47.6%)	1 (100.0%)	④48 (44.4%)	13 (15.7%)	47 (16.2%)	3 (12.5%)	> 63 (15.8%)	30.4% >	15.7%
頭がいい	0 (0.0%) <	13 (15.5%)	0 (0.0%)	13 (12.0%)	6 (7.2%)	25 (8.6%)	1 (4.2%)	32 (8.0%)	0.0% <	7.2%
目立たないタイプである	⑨6 (26.1%)	14 (16.7%)	1 (100.0%)	21 (19.4%)	⑥30 (36.1%)	⑦78 (26.8%)	5 (20.8%)	⑧113 (28.4%)	26.1% <	36.1%
人をよく笑わせる	③12 (52.2%)	⑤37 (44.0%)	0 (0.0%)	③49 (45.4%)	⑨27 (32.5%)	⑨75 (25.8%)	3 (12.5%)	> ⑨105 (26.4%)	⑤2.2% >	32.5%
心が優しい・やさしい	⑤9 (39.1%)	⑩29 (34.5%)	0 (0.0%)	⑧38 (35.2%)	⑩23 (27.7%)	53 (18.2%)	5 (20.8%)	> ⑬81 (20.4%)	39.1% >	27.7%
友達が多い	①16 (69.6%)	①56 (66.7%)	0 (0.0%)	①72 (66.7%)	④31 (37.3%)	④106 (36.4%)	10 (41.7%)	> ④147 (36.9%)	⑥9.6% >	37.3%
よくよしない(タイプである)	4 (17.4%)	⑬19 (22.6%)	0 (0.0%)	⑩23 (21.3%)	13 (15.7%)	⑩73 (25.1%)	2 (8.3%)	⑩88 (22.1%)	17.4% <	15.7%
ものごとを深く考える・色々な事を深く考える	3 (13.0%) <	⑧30 (35.7%)	0 (0.0%)	⑩33 (30.6%)	③33 (39.8%) >	⑥84 (28.9%)	6 (25.0%)	⑥123 (30.9%)	13.0% <	39.8%
神経質である・細かいことにこだわる	⑨6 (26.1%)	⑧30 (35.7%)	0 (0.0%)	⑨36 (33.3%)	⑬19 (22.9%)	43 (14.8%)	4 (16.7%)	> 66 (16.6%)	26.1%	22.9%
行動力がある・考える前に行動するタイプである	4 (17.4%)	14 (16.7%)	0 (0.0%)	18 (16.7%)	9 (10.8%)	33 (11.3%)	1 (4.2%)	43 (10.8%)	17.4%	10.8%
みんなから信頼されている	2 (8.7%) <	⑩17 (20.2%)	0 (0.0%)	19 (17.6%)	6 (7.2%)	25 (8.6%)	0 (0.0%)	31 (7.8%)	8.7%	7.2%
キレるタイプである	⑦8 (34.8%) >	15 (17.9%)	0 (0.0%)	⑩23 (21.3%)	12 (14.5%)	39 (13.4%)	4 (16.7%)	> 55 (13.8%)	34.8% >	14.5%
明るい	④11 (47.8%)	②48 (57.1%)	0 (0.0%)	②59 (54.6%)	②37 (44.6%)	③130 (44.7%)	9 (37.5%)	> ②176 (44.2%)	47.8%	44.6%
自分に自信がある	1 (4.3%) <	⑩18 (21.4%)	0 (0.0%)	19 (17.6%)	7 (8.4%)	25 (8.6%)	1 (4.2%)	33 (8.3%)	4.3%	8.4%
困難な時に・大変な時に自分の力で解決できる	0 (0.0%) <	⑬19 (22.6%)	0 (0.0%)	19 (17.6%)	11 (13.3%)	26 (8.9%)	2 (8.3%)	39 (9.8%)	0.0% <	13.3%
ムカツクタイプである	⑤9 (39.1%) >	13 (15.5%)	0 (0.0%)	⑩22 (20.4%)	⑬18 (21.7%) >	34 (11.7%)	6 (25.0%)	58 (14.6%)	39.1% >	21.7%
短気である	⑩25 (21.7%)	15 (17.9%)	0 (0.0%)	20 (18.5%)	⑧29 (34.9%)	⑧76 (26.1%)	11 (45.8%)	< ⑦116 (29.1%)	21.7% <	34.9%
自己主張をする方である・自分の意見をはっきり言えるタイプである	2 (8.7%) <	⑩21 (25.0%)	0 (0.0%)	⑩23 (21.3%)	10 (12.0%)	49 (16.8%)	4 (16.7%)	63 (15.8%)	8.7%	12.0%
他人の目を気にするタイプである	⑨6 (26.1%) <	④39 (46.4%)	1 (100.0%)	⑥46 (42.6%)	①51 (61.4%) >	①144 (49.5%)	10 (41.7%)	①205 (51.5%)	26.1%	⑥1.4%
ふつうである	②14 (60.9%)	> ⑥34 (40.5%)	0 (0.0%)	④48 (44.4%)	④31 (37.3%) <	②138 (47.4%)	7 (29.2%)	②176 (44.2%)	⑥0.9% >	37.3%
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.2%)	4 (1.4%)	1 (4.2%)	6 (1.5%)	0.0%	1.2%
合計	23	84	1	108	83	291	24	398	23	83

注) 1) B群: 著しい困難群; S群: それ以外群
 2) 「あてはまる (○)」と「よくあてはまる (◎)」との合計
 3) 整数は回答人数; () の小数の数字は、『合計』を母数とする割合 (%)
 4) 白抜きの数字 (①②③...) は、割合の高い順位で、20.0%以上に記載
 5) 開い込みの数字 [数字] は、50.0%以上の割合 (『無回答』は除く)
 6) 不等号の記号 (<, >) は、10.0%以上差があった場合の大小の関係 (『無回答』『計』は除く); 『計』の不等号の記号 (<=, >=) は、10.0%以上差があった場合の大小の関係

思いつきあばれまわりたい」(44.4%)の順位であった。『B群』では、「ねむい」(91.3%)・「考えがまとまらない」「横になって休みたい」「根気がなくなる・一つのことを長く続ける気持がない」「大声を出したり、思いつきあばれまわりたい」(各69.6%)の順位であった。『S群』では、「ねむい」(76.2%)・「目が見つかる」(50.0%)・「横になって休みたい」(47.6%)・「頭が痛い、ぼんやりする」(42.9%)・「体がだるい」(38.1%)の順位であった。

「中学生調査」では、「ねむい」(82.4%)・「目が見つかる」(57.5%)・「横になって休みたい」(57.3%)・「イライラする」(55.0%)・「考えがまとまらない」(52.0%)の順位であった。『B群』では、「ねむい」(90.4%)・「イライラする」「横になって休みたい」(各74.7%)・「目が見つかる」(72.3%)・「考えがまとまらない」(69.9%)の順位であった。『S群』では、「ねむい」(79.0%)・「横になって休みたい」(54.0%)・「目が見つかる」(53.6%)・「イライラする」(47.4%)・「考えがまとまらない」(46.7%)の順位であった。

さらに、「考えがまとまらない」(小学生：40.7%≪中学生：52.0%)・「イライラする」(小学生：

38.9%≪中学生：55.0%)・「何もやる気がしない」(小学生：25.9%≪中学生：39.4%)・「肩がこる」(小学生：27.8%≪中学生：38.9%)・「急に立ったときに倒れそうになったり、めまいがする」(小学生：18.5%≪中学生：35.9%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

群間別をみてみると、「小学生調査」においては、「考えがまとまらない」(B群：69.6%>S群：32.1%)・「イライラする」(B群：56.5%>S群：34.5%)・「ねむい」(B群：91.3%>S群：76.2%)・「根気がなくなる・一つのことを長く続ける気持がない」(B群：69.6%>S群：33.3%)・「横になって休みたい」(B群：69.6%>S群：47.6%)・「大声を出したり、思いつきあばれまわりたい」(B群：69.6%>S群：36.9%)・「何もやる気がしない」(B群：47.8%>S群：20.2%)・「夜眠れない」(B群：39.1%>S群：28.6%)では、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。「中学生調査」においては、「おなか痛い」(B群：37.3%≡S群：30.6%)以外の項目が、『S群』よりも『B群』の方が割合が高った。

「B群別」においては、「根気がなくなる・一

表11 不定愁訴(複数回答)

	小学生				中学生				B群(再掲)	
	B群	S群	無回答	計	B群	S群	無回答	計	小学生	中学生
精神的疲労状況	考えがまとまらない	②16(69.6%) > ⑩27(32.1%)	1(100.0%)	⑦44(40.7%)	⑤58(69.9%) > ⑤136(46.7%)	13(54.2%)	≪ ⑤207(52.0%)	⑥69.6%	⑥69.9%	
	イライラする	⑥13(56.5%) > ⑧29(34.5%)	0(0.0%)	⑧42(38.9%)	②62(74.7%) > ④138(47.4%)	19(79.2%)	≪ ④219(55.0%)	⑤56.5%	< ⑦74.7%	
	ねむい	①21(91.3%) > ①64(76.2%)	1(100.0%)	①86(79.6%)	①75(90.4%) > ①230(79.0%)	23(95.8%)	①328(82.4%)	①91.3%	①90.4%	
	根気がなくなる・一つのことを長く続ける気持がない	②16(69.6%) > ⑨28(33.3%)	1(100.0%)	⑥45(41.7%)	⑬41(49.4%) > ⑬93(32.0%)	15(62.5%)	⑩149(37.4%)	⑥69.6%	> 49.4%	
	横になって休みたい	②16(69.6%) > ③40(47.6%)	1(100.0%)	②57(52.8%)	②62(74.7%) > ②157(54.0%)	9(37.5%)	③228(57.3%)	⑥69.6%	⑦74.7%	
身体疲労状況	大声を出したり、思いつきあばれまわりたい	②16(69.6%) > ⑥31(36.9%)	1(100.0%)	⑤48(44.4%)	⑨44(53.0%) > ⑨89(30.6%)	8(33.3%)	⑨141(35.4%)	⑥69.6%	> ⑤53.0%	
	何もやる気がしない	⑧11(47.8%) > ⑰17(20.2%)	0(0.0%)	⑰28(25.9%)	⑧45(54.2%) > ⑩103(35.4%)	9(37.5%)	≪ ⑧157(39.4%)	47.8%	⑤54.2%	
	頭が重い、ぼんやりする	⑦12(52.2%)	④36(42.9%)	1(100.0%)	④49(45.4%)	⑨44(53.0%) > ⑩101(34.7%)	8(33.3%)	⑩153(38.4%)	⑤52.2%	⑤53.0%
	頭が痛い	⑫8(34.8%)	⑦30(35.7%)	1(100.0%)	⑩39(36.1%)	⑦46(55.4%) > ⑧104(35.7%)	12(50.0%)	⑦162(40.7%)	34.8%	< ⑤55.4%
	体がだるい	⑩9(39.1%)	⑤32(38.1%)	1(100.0%)	⑧42(38.9%)	⑥47(56.6%) > ⑥112(38.5%)	11(45.8%)	⑥170(42.7%)	39.1%	< ⑤56.6%
重度な疲労状況	肩がこる	6(26.1%)	23(27.4%)	1(100.0%)	30(27.8%)	⑫43(51.8%) > ⑦107(36.8%)	5(20.8%)	≪ ⑩155(38.9%)	26.1%	< ⑤51.8%
	腰や手足が痛い	⑬7(30.4%)	25(29.8%)	0(0.0%)	32(29.6%)	⑨44(53.0%) > ⑧104(35.7%)	9(37.5%)	⑧157(39.4%)	30.4%	< ⑤53.0%
	目が見つかる	⑧11(47.8%)	②42(50.0%)	1(100.0%)	③54(50.0%)	④60(72.3%) > ③156(53.6%)	13(54.2%)	②229(57.5%)	47.8%	< ⑦72.3%
	急に立ったときに倒れそうになったり、めまいがする	6(26.1%)	14(16.7%)	0(0.0%)	20(18.5%)	⑬39(47.0%) > ⑫96(33.0%)	8(33.3%)	≪ ⑬143(35.9%)	26.1%	< 47.0%
	人と話すのがいや	4(17.4%)	8(9.5%)	0(0.0%)	12(11.1%)	⑯29(34.9%) > 46(15.8%)	4(16.7%)	79(19.8%)	17.4%	< 34.9%
おなか痛い	6(26.1%)	22(26.2%)	1(100.0%)	29(26.9%)	⑬31(37.3%) ⑨89(30.6%)	8(33.3%)	⑮128(32.2%)	26.1%	< 37.3%	
夜眠れない	⑩9(39.1%) > 24(28.6%)	1(100.0%)	⑩34(31.5%)	⑩34(31.5%)	⑩27(32.5%) > 57(19.6%)	12(50.0%)	⑯96(24.1%)	39.1%	32.5%	
便秘や下痢をする	4(17.4%)	11(13.1%)	0(0.0%)	15(13.9%)	19(22.9%) > 32(11.0%)	3(12.5%)	54(13.6%)	17.4%	> 22.9%	
合計	23	84	1	108	83	291	24	398	23	83

注) 1) B群：著しい困難群；S群：それ以外群
2) 「毎日ある」と「時々ある」の合計
3) 整数は回答人数；() の小数の数字は、『合計』を母数とする割合(%)
4) 白抜きの数字(①②③…)は、割合の高い順位で、30.0%以上に記載
5) 開い込みの[数字]は、50.0%以上の割合(『無回答』は除く)
6) 不等号の記号(<, >)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係(『無回答』『計』は除く)；『計』の不等号の記号(≪, ≫)は、10.0%以上差があった場合の大小の関係

つのことを長く続ける気持がない」(小学生：69.6%>中学生：49.4%)・「大声を出したり、思いっきりあばれまわりたい」(小学生：69.9%>中学生：53.0%)では、『中学生』よりも『小学生』の方が割合が高った。逆に、「イライラする」(小学生：56.5%<中学生：74.7%)・「頭が痛い」(小学生：34.8%<中学生：55.4%)・「体がだるい」(小学生：39.1%<中学生：56.6%)・「肩がこる」(小学生：26.1%<中学生：51.8%)・「腰や手足が痛い」(小学生：30.4%<中学生：53.0%)・「目がつかれる」(小学生：47.8%<中学生：72.3%)・「急に立ったときに倒れそうになったり、めまいがする」(小学生：26.1%<中学生：47.0%)・「人と話すのがいや」(小学生：17.4%<中学生：34.9%)・「おなか痛い」(小学生：26.1%<中学生：37.3%)では、『小学生』よりも『中学生』の方が割合が高った。

これらのことから、小中学生ともストレスの状態と言えるが、特に中学生になると深刻化する傾向がある。また、B群においてはS群よりもストレスの強い傾向として、小学生では精神的疲労状況がメインであるが、中学生になると、ありとあらゆる状況になりストレスが強まっていると言えよう。

②不定愁訴の得点 (表12参照)

不定愁訴の得点の結果は、以下の通りであった。

不定愁訴の3領域の得点と総得点の平均(SD：標準偏差)は、「小学生調査」では、「精神的疲労状況の得点」の『B群』は15.8(3.45)・『S群』は19.5(3.91)、「身体的疲労状況の得点」の『B群』は20.4(4.23)・『S群』は20.9(4.55)、「重度な疲労状況の得点」の『B群』は12.6(2.19)・『S群』は13.2(1.97)、「総得点」の『B群』は48.8(8.07)・『S群』は53.6(8.90)であった。「中学生調査」では、「精神的疲労状況の得点」の『B群』は15.3(4.81)・『S群』は18.5(4.37)、「身体的疲労状況の得点」の『B群』は17.2(4.94)・『S群』は19.7(4.78)、「重度な疲労状況の得点」の『B群』は11.8(2.85)・『S群』は13.1(2.46)、「総得点」の『B群』は44.3(11.22)・『S群』は51.3(10.34)であった。

「群間別」をみてみると、「小学生調査」では、「考えがまとまらない」(B群：2.3<S群：2.9)・「イライラする」(B群：2.4<S群：2.9)・「一つのことを長く続ける気持がない」(B群：2.2

<S群：2.9)・「横になって休みたい」(B群：2.1<S群：2.7)・「大声を出したり、思いっきりあばれまわりたい」(B群：2.3<S群：2.9)・「何もやる気がしない」(B群：2.6<S群：3.3)・「精神的疲労状況の得点」(B群：15.8<S群：19.5)・「総得点」(B群：48.8<S群：53.6)が5%水準で優位の差があり、さらに、「ねむい」(B群：1.7<S群：2.1)が10%水準で傾向があり、S群よりもB群の方が得点が高った。「中学生調査」では、「おなか痛い」(B群：2.8≒S群：3.0)以外の項目・「精神的疲労状況」項目得点(7項目)・「身体的疲労状況」項目得点(7項目)・「重度な疲労状況」項目得点(4項目)・「総得点」が5%水準で優位の差があり、B群よりもS群の方が得点が高かった。

「B群別」において、「体がだるい」(小学生：2.9>中学生：2.5)・「体がだるい」(小学生：3.2>中学生：2.5)・「腰や手足が痛い」(小学生：3.0>中学生：2.5)・「目がつかれる」(小学生：2.7>中学生：2.0)・「急に立ったときに倒れそうになったり、めまいがする」(小学生：3.2>中学生：2.7)・「身体的疲労状況の得点」(小学生：20.4>中学生：17.2)・「人と話すのがいや」(小学生：3.4>中学生：2.9)・「総得点」(小学生：48.8>中学生：44.3)が5%水準で優位の差があり、さらに、「根気がなくなる・一つのことを長く続ける気持がない」(小学生：2.2<中学生：2.6)が10%水準で傾向があり、中学生よりも小学生の方が得点が高かった。

これらのことから、小中学生は、ストレスの状況にあるといえ、特に中学生においては、強いストレスの状況にあると言えよう。さらに、B群は、S群よりも強いストレスになっていると言えよう。

以上のことから、B群の特徴をまとめると以下の通りになる。

- ①小学生では男子が多く、中学生では女子が多い傾向があった。
- ②小・中学生ともに学校へ行くのが楽しいが、小学生では、S群よりも楽しいと思っているのが少なく、中学生では、S群よりもつまらないと思っているのが多い傾向があった。
- ③小中学生とも、S群よりも学校へ行くのが嫌になったのことが多い傾向があった。
- ④小中学生とも、学校へ行くのが嫌になったときに、学校へ行かなかったことがないのがほ

表12 不定愁訴の得点

		小学生		中学生		B群間の検定 (F検定:t検定)
		B群	S群	B群	S群	
精神的疲労状況	考えがまとまらない	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.3 (0.95) [22] F=1.36;t=2.47;df=28.6*	2.9 (0.76) [84]	2.2 (0.89) [82] F=0.72;t=-4.58;df=124.5***	2.7 (0.84) [291] F=0.15;t=0.50;df=31.6
	イライラする	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.4 (0.84) [23] F=0.05;t=2.30;df=35.1*	2.9 (0.84) [84]	2.1 (0.99) [83] F=1.08;t=-5.23;df=125.3***	2.7 (0.92) [286] F=0.07;t=1.61;df=40.7
	ねむい	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	1.7 (0.77) [23] F=0.07;t=2.00;df=40.9+	2.1 (0.91) [83]	1.6 (0.82) [83] F=0.22;t=-2.31;df=142.4*	1.9 (0.89) [289] F=0.26;t=0.31;df=37.2
	根気がなくなる・一つのことを長く続ける気がない	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.2 (0.89) [23] F=0.01;t=3.46;df=34.3**	2.9 (0.87) [84]	2.6 (0.93) [83] F=6.23;t=-2.74;df=370**	2.9 (0.82) [289] F=1.19;t=-1.86;df=36.4+
	横になって休みたい	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.1 (0.95) [23] F=1.06;t=2.58;df=35.7*	2.7 (0.97) [84]	1.9 (1.03) [83] F=3.30;t=-4.46;df=139.2***	2.5 (1.09) [290] F=0.75;t=0.91;df=37.6
	大声を出したり、思いっきりあばれまわりたい	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.3 (0.92) [23] F=2.88;t=2.60;df=40.8*	2.9 (1.09) [84]	2.5 (1.12) [83] F=10.28;t=-3.49;df=372***	3.0 (0.97) [291] F=5.60;t=-1.06;df=104
	何もやる気がしない	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.6 (0.78) [23] F=0.01;t=3.49;df=34.7**	3.3 (0.77) [84]	2.4 (1.05) [83] F=4.60;t=-4.44;df=371.0***	2.93 (0.93) [290] F=4.67;t=0.900;df=104
	精神的疲労状況の得点	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	15.8 (3.45) [23] F=0.38;t=4.41;df=39.0***	19.5 (3.91) [84]	15.3 (4.81) [82] F=0.81;t=-5.48;df=122.8***	18.5 (4.37) [280] F=2.46;t=0.62;df=48.7
身体的疲労状況	頭が重い、ぼんやりする	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.6 (0.90) [23] F=1.22;t=0.73;df=31.4	2.7 (0.77) [84]	2.6 (0.87) [83] F=0.91;t=-2.98;df=131.0**	2.9 (0.86) [291] F=0.01;t=-0.06;df=34.4
	頭が痛い	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.8 (0.80) [23] F=1.03;t=0.56;df=39.4	2.9 (0.90) [82]	2.5 (0.89) [83] F=0.30;t=-3.11;df=132.8**	2.9 (0.89) [291] F=1.67;t=1.38;df=38.6
	体がだるい	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.9 (0.82) [23] F=0.32;t=-0.32;df=37.8	2.8 (0.89) [83]	2.5 (0.89) [83] F=0.01;t=-3.49;df=134.5***	2.8 (0.90) [290] F=0.56;t=2.10;df=37.7*
	肩がこる	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	3.2 (0.95) [23] F=0.45;t=-0.53;df=39.1	3.1 (1.08) [84]	2.5 (1.11) [83] F=2.23;t=-2.77;df=126.3**	2.8 (1.04) [289] F=1.98;t=3.27;df=40.1**
	腰や手足が痛い	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	3.0 (0.93) [23] F=0.02;t=-0.25;df=35.3	3.0 (0.94) [84]	2.5 (0.94) [83] F=0.01;t=-2.76;df=137.5**	2.8 (0.98) [290] F=0.34;t=2.39;df=35.6*
	目がかかれる	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.7 (1.10) [23] F=1.67;t=-0.64;df=31.8	2.6 (0.95) [83]	2.0 (0.98) [83] F=2.53;t=-3.81;df=132.6***	2.5 (0.98) [289] F=2.38;t=2.78;df=32.4**
	急に立ったときに倒れそうになったり、めまいがする	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	3.2 (0.83) [23] F=0.08;t=1.46;df=34.1	3.5 (0.80) [83]	2.7 (1.06) [82] F=3.30;t=-2.61;df=123.1*	3.00 (0.98) [291] F=3.67;t=2.52;df=43.9*
	身体的疲労状況の得点	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	20.4 (4.23) [23] F=0.02;t=0.50;df=37.2	20.9 (4.55) [84]	17.2 (4.94) [82] F=0.01;t=-4.08;df=127.7***	19.7 (4.78) [285] F=0.38;t=3.09;df=40.5**
重度な疲労状況	人と話すのがいや	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	3.4 (0.89) [23] F=4.90;t=1.43;df=105	3.6 (0.66) [84]	2.9 (1.01) [83] F=6.65;t=-4.70;df=372***	3.4 (0.80) [291] F=0.51;t=2.37;df=38.9*
	おなか痛い	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	3.1 (0.90) [23] F=0.09;t=-0.30;df=34.7	3.0 (0.89) [84]	2.8 (0.95) [83] F=0.50;t=-1.53;df=130.1	3.0 (0.93) [291] F=0.38;t=1.19;df=36.7
	夜眠れない	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	2.8 (1.04) [23] F=0.50;t=1.25;df=32.6	3.1 (0.95) [84]	3.0 (1.03) [82] F=4.76;t=-2.15;df=370*	3.2 (0.86) [290] F=0.02;t=-0.89;df=35.0
	便秘や下痢をする	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	3.3 (0.77) [23] F=0.13;t=0.90;df=33.4	3.5 (0.72) [84]	3.2 (0.92) [83] F=7.07;t=-3.04;df=372**	3.5 (0.73) [291] F=0.71;t=0.72;df=41.5
	重度な疲労状況の得点	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	12.6 (2.19) [23] F=1.34;t=1.26;df=32.4	13.2 (1.97) [84]	11.8 (2.85) [82] F=2.50;t=-3.62;df=117.2***	13.1 (2.46) [290] F=1.27;t=1.31;df=45.0
総得点	平均(SD) [人数] 群間の検定 (F検定:t検定)	48.8 (8.07) [23] F=0.32;t=2.48;df=38.0*	53.6 (8.90) [84]	44.3 (11.22) [80] F=0.09;t=-5.00;df=120.9***	51.3 (10.34) [274] F=1.55;t=2.12;df=49.0*	

注) 1) B群: 著しい困難群; S群: それ以外群
2) 『平均』は平均得点、『(SD)』は標準偏差、『[人数]』は回答人数
3) 群間の検定・B群間の検定…F:F値,t:t値,df:自由度,+p<0.1; *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

とんどであるが、S群よりも学年を経るに従って減少する傾向があった。

- ⑤ S群に比べて学校の成績を低く評価する傾向があり、学年を経るに従ってこの傾向は強くなる。
- ⑥ 小学生では自分のことが好きである児童が多いが、学年を経るに従ってきらいになる傾向が強い。
- ⑦ 小中学生とも、自分は明るく・友人が多いなど自己概念をプラスに思っているが、中学生

になると、他人の目を気にするなど評価する生徒が増える傾向にあった。小学生のB群でもほぼ同じ傾向ではあるが、さらに自分をふつうと思う小学生がS群より多いが、中学生になると逆転をする傾向がある。

- ⑧ 小中学生ともストレスの状態と言えるが、特に中学生になると深刻化する傾向があり、B群においてはS群よりもストレスの強い傾向があった。

（6）2類の結果

『B群』と『S群』との特徴を明確にするために、
林の数量化Ⅱ類を実施した。

①基本的属性との関係（図1参照）

図1は、『B群』『S群』と基本的属性との数量化Ⅱ類の結果である。

この結果から、『S群』では、『小学4年生』か『小学6年生～中学2年生』、『男子』という特徴がある。『B群』では、『小学5年生』か『中学3年生』、『女子』という特徴がある。

②学校生活との関係（図2参照）

図2は、『B群』『S群』と学校生活との関係との数量化Ⅱ類の結果である。

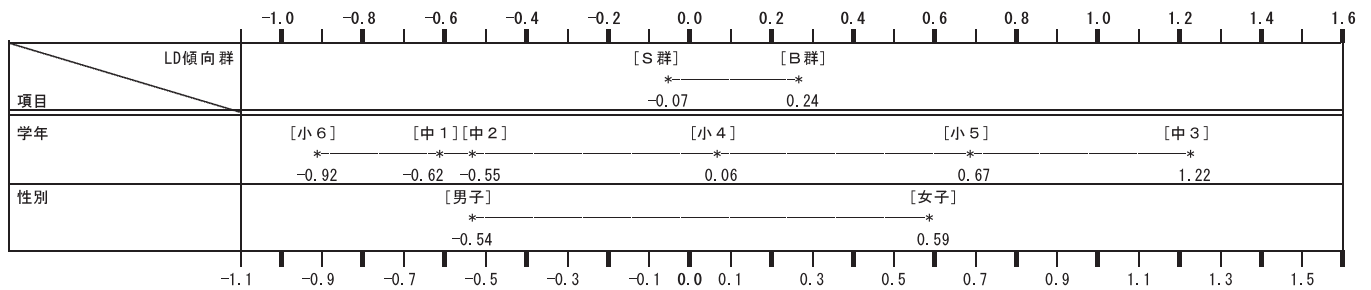
この結果から、『S群』では、学校へ行くのが『大変楽しい』・『楽しい』か『どちらでもない』、学校へ行くのが嫌になったことが『あまりない』、学校へ行くのが嫌になったとき、学校へ行かなかったこと『あまりない』『時々ある』か『全くない』、学校での成績は『上』か『中の上』『中』という特徴がある。『B群』では、学校へ行くのが

『つまらない』、学校へ行くのが嫌になったとき、学校へ行かなかったこと『よくある』、学校での成績は『中の下』か『下』という特徴がある。

③自己概念との関係（図3参照）

図3は、『B群』『S群』と自己概念との関係との数量化Ⅱ類の結果である。

この結果から、『S群』では、自分のことが『嫌い』か『どちらでもない』で、さらに、「勉強が良くできる」「がんばりやである」「しっかりしている」「運動神経がいい・運動ができる」「頭がいい」「くよくよしない（タイプである）」「みんなから信頼されている」「キレるタイプである」「自分に自信がある」「困難な時に・大変な時に自分の力で解決できる」「自己主張をする方である・自分の意見をはっきり言うタイプである」「ふつうである」と思っており、「落ち着いたしている」「苦しいこともガマンできる」「自己中心的である」「目立たないタイプである」「人をよく笑わせる」「心が優しい・やさしい」「友達が多い」「明るい」「ムカツクタイプである」「短気である」と思っていないという特徴がある。『B群』では、自分のこ



注) 学年は、[小4]は小学4年生、[小5]は小学5年生、[小6]は小学6年生、[中1]は中学1年生、[中2]は中学2年生、[中3]は中学3年生

図1 『B群』『S群』と基本的属性の結果

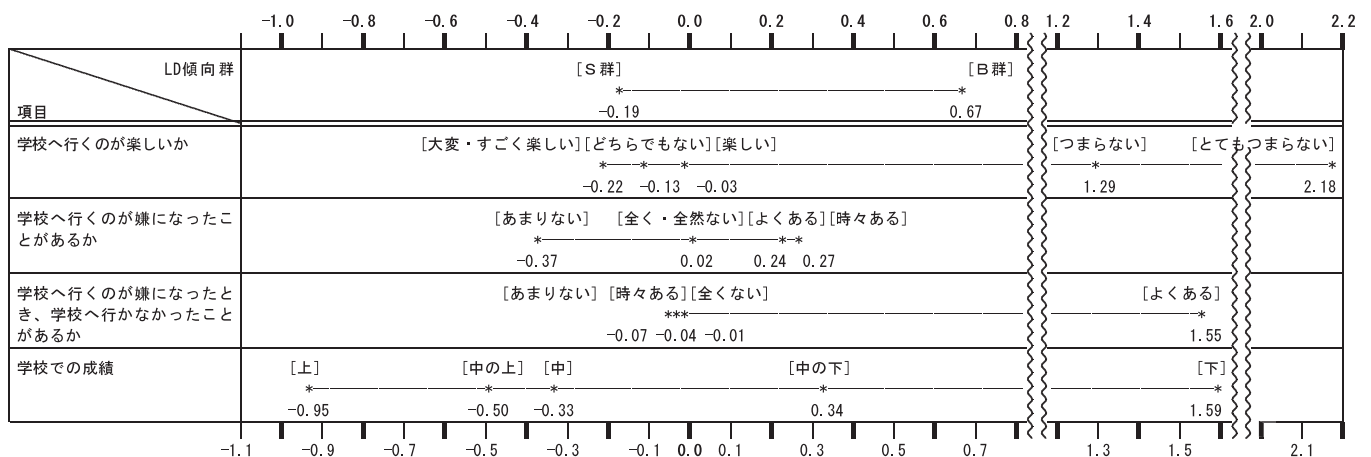


図2 『B群』『S群』と学校生活の結果

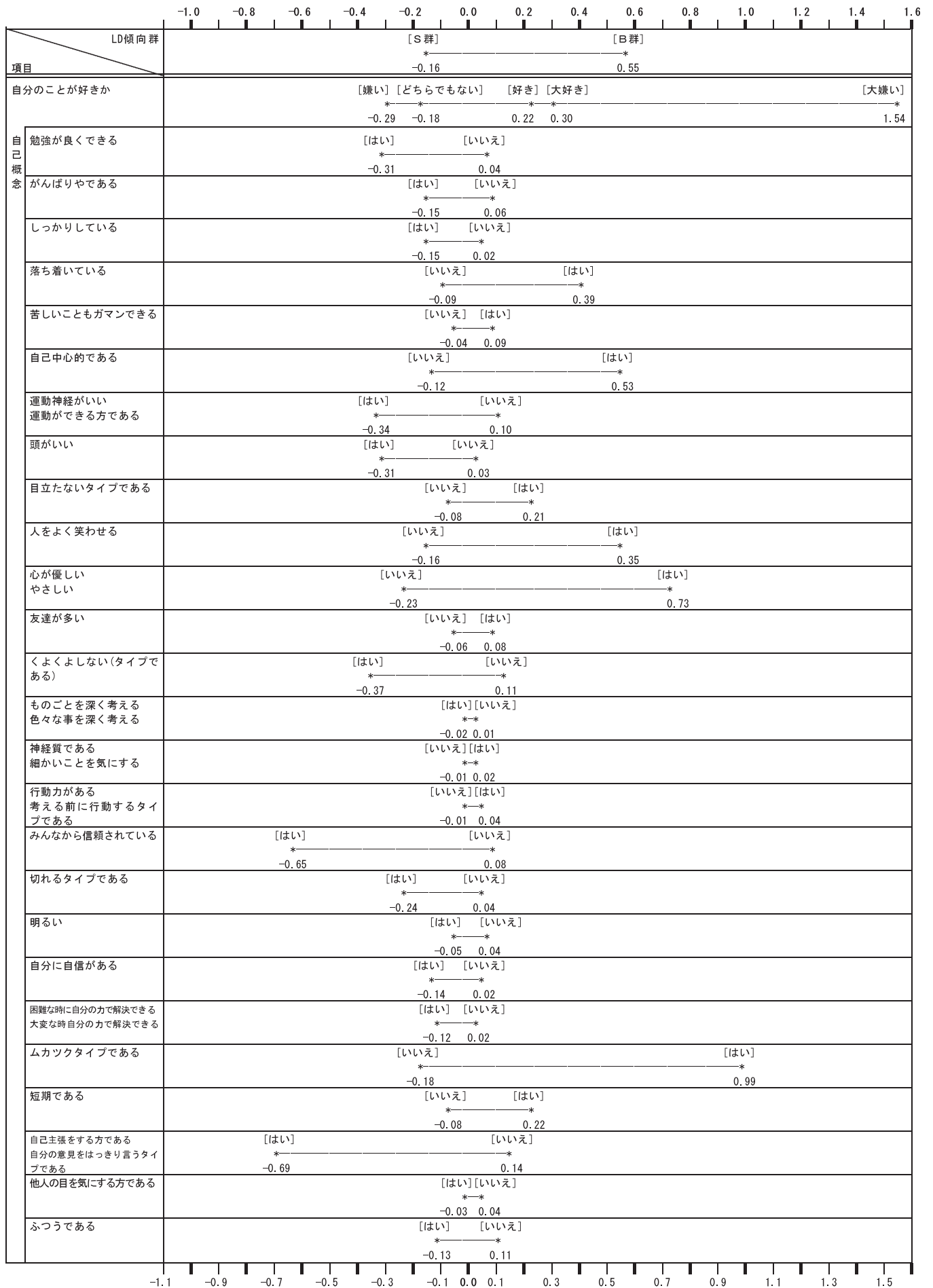


図3 『B群』『S群』と自己概念の結果

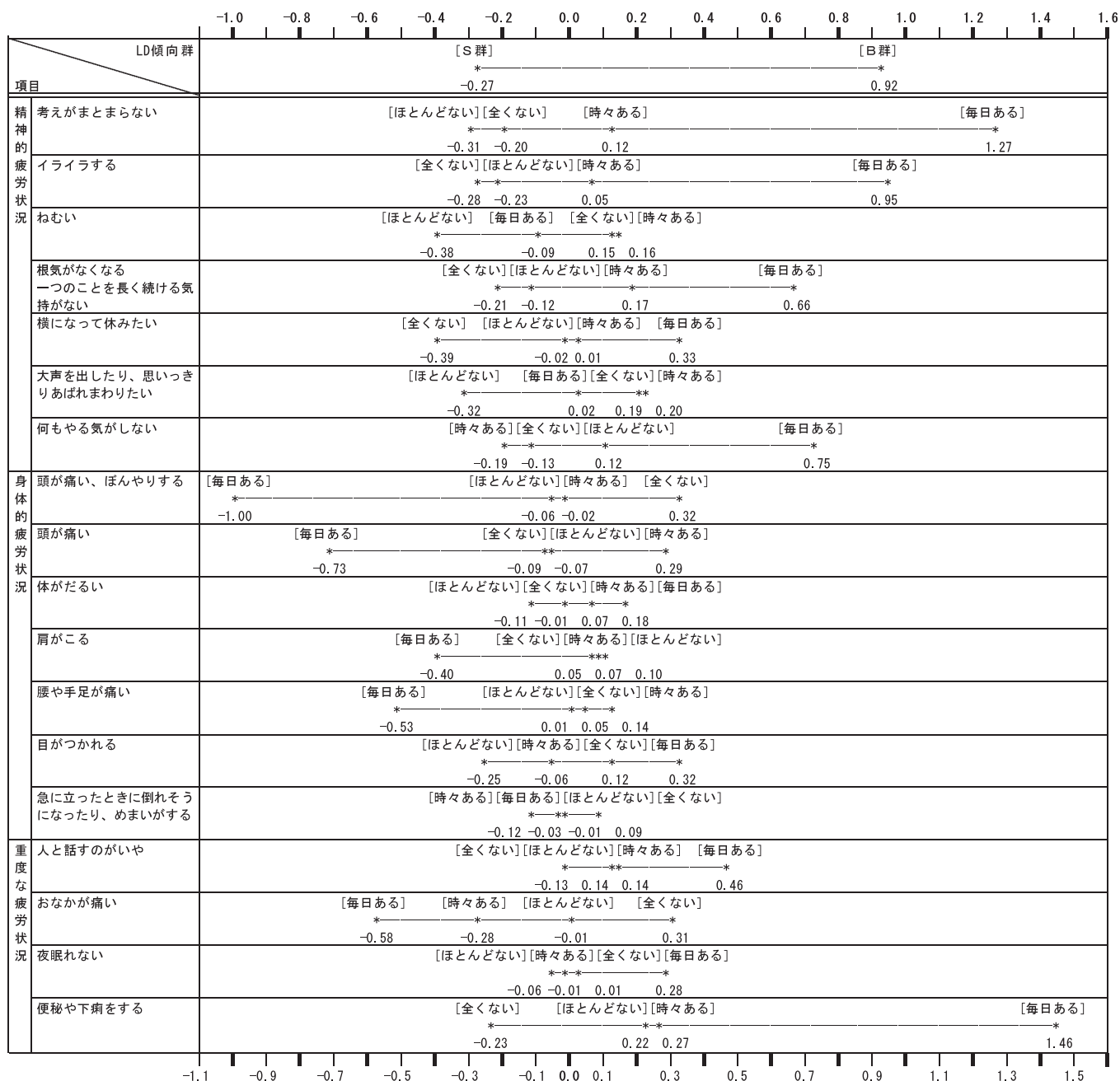


図4 『B群』『S群』と不定愁訴の結果

とが『大好き』で、さらに、「」「落ち着いている」「自己中心的である」「人をよく笑わせる」「心が優しい・やさしい」「ムカツクタイプである」と思っているという特徴がある。

④不定愁訴との関係（図4参照）

図4は、『B群』『S群』と不定愁訴との関係との数量化Ⅱ類の結果である。

この結果から、『S群』では、「イライラする」「根気がなくなる・一つのことを長く続ける気持

がない」「横になって休みたい」「便秘や下痢をする」が『全くなく』、「考えがまとまらない」「ねむい」「大声を出したり、思いっきりあばれまわりたい」「目がつかれる」が『ほとんどなく』、「頭が重い、ぼんやりする」「頭が痛い」「肩がこる」「腰や手足が痛い」が『毎日ある』、「何もやる気がしない」が『時々ある』、「おなかが痛い」が『毎日ある』か『時々ある』という特徴がある。『B群』では、「考えがまとまらない」「イライラする」「根気がなくなる・一つのことを長く続ける気持

がない」「何もやる気がしない」「便秘や下痢をする」が『毎日ある』という特徴がある。

以上の数量化Ⅱ類の結果から、LD傾向の強い群である『B群』の特徴は以下の通りである。

- ①小学5年生か中学3年生の女子である。
- ②学校へ行くのはつまらないと思ひ、学校へ行くのが嫌になったとき、学校へ行かなかつたことがよくあり、学校での成績は中の下か下である。
- ③自分のことが大好きであり、自分を落ち着いており、人をよく笑わせ、心が優しい・やさしい方であると思ふ反面、自己中心的で、ムカツクタイプである方とも思っている。
- ④考えがまとまらないことや、イライラすること、根気がなくなることや、一つのことを長く続ける気持がない、何もやる気がしないこと、便秘や下痢をすることが毎日ある。

4. おわりに

林の数量化Ⅱ類の結果やその他の結果から、B群の特徴をまとめると以下の通りになる。

- ①小学生では男子が多く、中学生では女子が多く、特に、小学5年生か中学3年生の女子に多い。
- ②小学生ではS群よりも楽しいと思っているのが少なく、中学生では、S群よりもつまらないと思っているのが多い。
- ③小中学生とも、学校へ行くのが嫌になるのが多い。
- ④中学生では、学校へ行くのが嫌になったときに、学校へ行かなかつたことがあるものがS群よりも多い。
- ⑤学校の成績は、S群より中の下や下と低く評価する傾向があり、中学生になるとこの傾向は強くなる。
- ⑥小学生では自分のことが好きであるのが多いが、学年を経るに従って嫌いになる傾向が強くなる。
- ⑦小中学生とも、自分を落ち着いており、人をよく笑わせ、心が優しい・やさしい方であると思ふ反面、自己中心的で、ムカツクタイプである方とも思っている。さらに、自分をふつうと思ふ小学生がS群よりも多いが、中学生になると逆転をする傾向がある。
- ⑧考えがまとまらないことや、イライラすること、根気がなくなることや、一つのことを長く続ける気持がない、何もやる気がしないこと、便秘や下痢をすることが毎日あり、小中学生ともストレスの状態といえ、特に中学生になると深刻化する傾向があり、S群よりもストレスの強い傾向がある。

これらのことから、LD傾向の強い群である『B群』の小中学生は、基本的に、学校に不適合とは言わないまでも、学校がかなりのストレスとなっている。また、自己肯定感が強く、自己概念もプラス傾向の評価をしているが、ムカツクタイプであるなど、自分の中の衝動性など認識している。ということは、LD傾向の強い群である『B群』の小中学生は、勉強を中心に学校などに対して強い不安感を抱いており、中学生になるとその不安感に、さらに思春期問題が加わり、問題が複雑化するのではないかと考えられる。

以上のことから、今後の問題点としては、

- ①調査対象を拡大し、特徴を明確にすること。
 - ②友人関係や地域などの生活構造や意識などの調査項目を増やし、特徴を明確にすること。
 - ③LD傾向以外の「著しい困難」児童生徒の特徴を明確にすること
- などがあげられる。

[謝辞] 調査にご協力を頂いた学校関係者の皆様には、紙面を借りてお礼を申し上げます。

[引用文献]

- 1) 石橋裕子・林幸範「特別支援教育に関する研究(1) —特別支援教育の課題・問題点を中心に—」鎌倉女子大学紀要、第13号、pp65-78、2006
- 2) 亀山洋光・林幸範・石橋裕子「特別支援教育に関する研究(1) —「著しい困難」な中学生の学校生活の特徴—」日本教育心理学会第50回総会発表論文集、p625、2008
- 3) 林幸範・亀山洋光・石橋裕子「特別支援教育に関する研究(2) —「著しい困難」な中学生の自己概念及びストレスの特徴—」日本教育心理学会第50回総会発表論文集、p626、2008
- 4) 亀山洋光・林幸範・石橋裕子「特別支援教育に関する研究(1) —「著しい困難」な中学生の学校生活の特徴(学年差の検討)—」日本発達心理学会第20回大会発表論文集、p525、2009
- 5) 亀山洋光・林幸範・林廣徳・石橋裕子、「特別支援教育に関する研究(3) —LD傾向のある中学生の特徴—」日本教育心理学会第51回総会発表論文集、p628、2009
- 6) 林幸範・林廣徳・亀山洋光・石橋裕子、「特別支援教育に関する研究(4) —LD傾向のある小学生の特徴—」日本教育心理学会第51回総会発表論文集、p629、2009

- 7) 亀山洋光・林廣徳・石橋裕子・林幸範「特別支援教育に関する研究（2）—LD傾向のある児童・生徒の特徴：学校生活について—」日本発達心理学会第21回大会発表論文集、2010（発表予定）
- 8) 石橋裕子・林廣徳・亀山洋光・林幸範「特別支援教育に関する研究（3）—LD傾向のある児童・生徒の特徴：自己概念・不定愁訴について—」日本発達心理学会第21回大会発表論文集、2010（発表予定）
- 9) 林幸範「中学生のストレスに関する研究—ストレスの構造を中心にして—」児童研究、Vol.78、pp11-23、1998、日本児童学会